

豊島区職員の男女平等意識に関する

調査報告書

(令和2年8月実施)

豊島区

# 目次

<b>第1章 調査実施の概要</b> .....	<b>3</b>
1 調査目的 .....	3
2 調査内容 .....	3
3 調査設計 .....	3
4 回収結果 .....	3
5 報告書の見方 .....	4
6 回答者の属性 .....	5
<b>第2章 調査結果の概要</b> .....	<b>7</b>
<b>第3章 調査結果</b> .....	<b>8</b>
1 男女平等意識について.....	8
2 家庭生活について.....	18
3 職業について .....	21
4 あらゆる分野における女性の活躍推進について.....	38
5 人権について .....	42
6 多様な性自認・性的指向の人々について.....	47
7 国・区の政策や施策について.....	55
<b>第4章 調査票</b> .....	<b>56</b>

# 第1章 調査実施の概要

## 1 調査目的

---

区行政を男女共同参画の視点の下で積極的に推進するため、それを担う職員の意識及び職場の状況を把握し、今後の施策検討の資料とする。

## 2 調査内容

---

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 女性活躍推進について
- (5) 人権について
- (6) 性的少数者について
- (7) 国・区の政策や施策について

## 3 調査設計

---

- (1) 調査対象者 豊島区全職員
- (2) 調査方法 職員ポータルでの調査票配布・回収
- (3) 調査時期 令和2年7月28日(火)～8月18日(火)
- (4) 集計 総務部 男女平等推進センター

## 4 回収結果

---

- (1) 調査対象数 3,578人
- (2) 有効回答数 1,222人
- (3) 有効回収率 34.2%

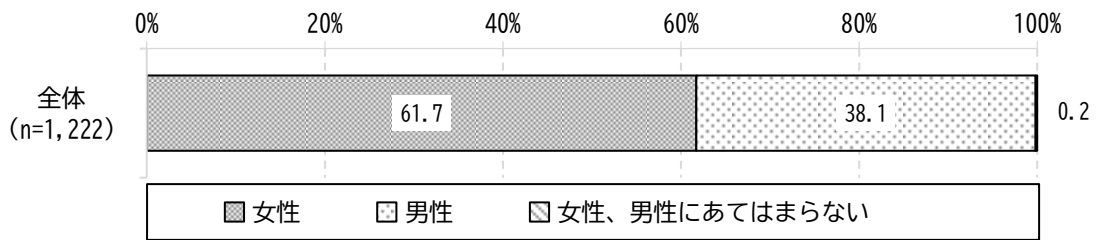
## 5 報告書の見方

---

- (1) 本報告書内の全体の数値は、原則として回答者総数（女性 754 人、男性 465 人、女性・男性にあてはまらない 3 人、性別無回答 0 人、全体 1,222 人）を 100%とした数値である。  
なお、「女性・男性にあてはまらない」と回答した者は 3 人いたが、統計的には有意とは言えないため、グラフへの掲載やコメントをしていない。
- (2) 図表中の n とは回答者総数（または該当質問での該当者数）のことである。
- (3) 集計は小数点第 2 位を四捨五入している。したがって、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (4) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基礎として算出した。
- (5) 住民意識調査との比較は、令和 2 年 8 月実施の住民意識調査と比較した。
- (6) 職員意識調査との比較は、平成 27 年 7 月実施の職員意識調査と比較した。

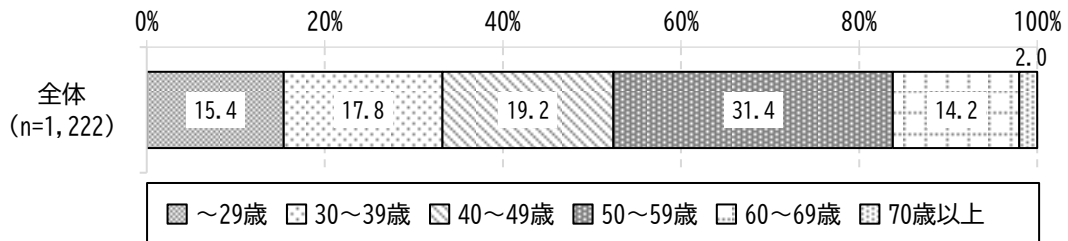
## 6 回答者の属性

### 【性別】

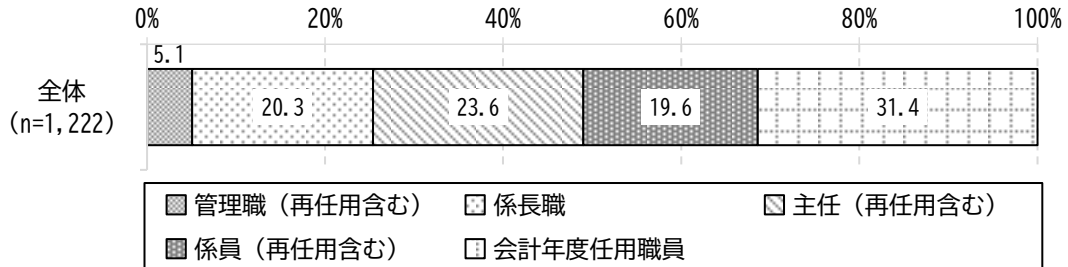


※令和2年度調査より、「女性、男性にあてはまらない」の選択肢が追加された。

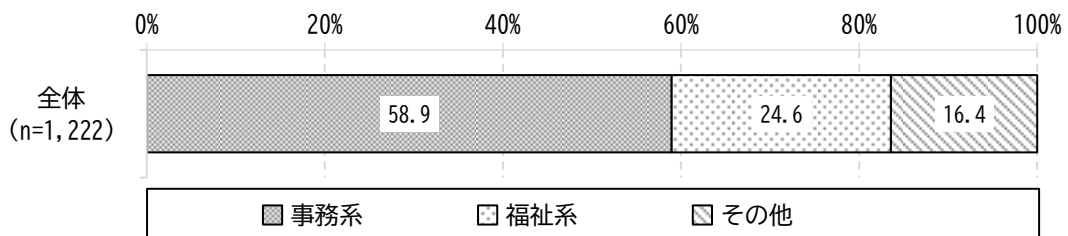
### 【年齢】



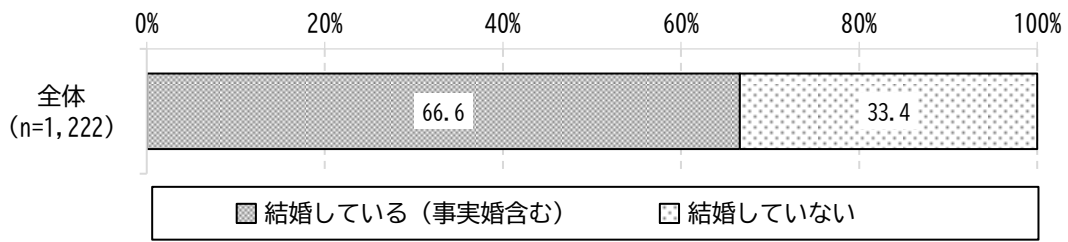
### 【職層】



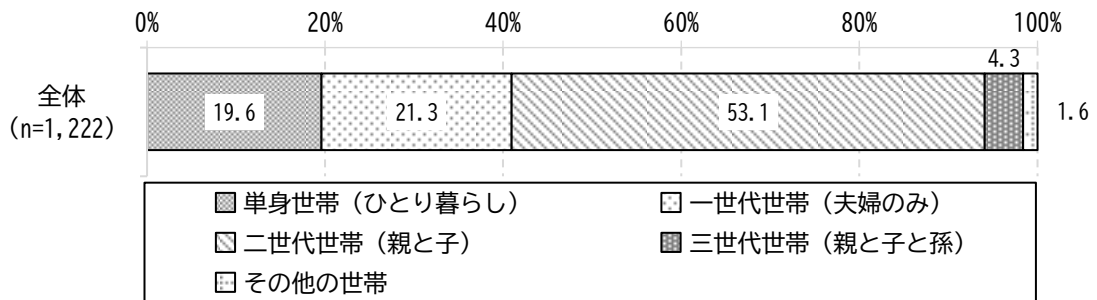
### 【職種】



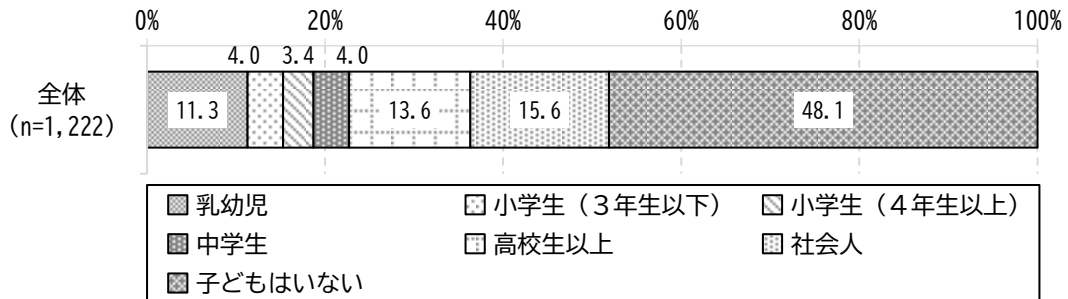
### 【結婚の状況】



### 【世帯構成】



### 【同居している1番下の子どもの状況】



## 第2章 調査結果の概要

- 全体では「どちらかといえば男女平等になっていない」と「男女平等になっていない」を合わせた『平等になっていない』と回答した人の割合は5割台半ばとなっている。性別にみると『平等になっていない』と回答した人の割合は女性の方が男性よりも多くなっている。(問1)
- 各分野における男女平等の実現度合いをみると、「(4) 政治の場で」や「(6) 社会通念・慣習・しきたり」の分野では、『男性の方が優遇されている』の回答が、他の分野に比べ特に多くなっている。性別にみると、「(1) 家庭の中で」と「(4) 政治の場で」における『男性の方が優遇されている』との回答が、女性の方が男性よりも多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問2)
- 家庭における家事等の分担状況をみると、「(1) 家庭の重大問題の決定」は「夫と妻と同程度」が58.4%、「(8) ゴミ出し」は「夫の担当」が26.2%でそれぞれ最も多くなっているが、他の場面では妻の役割の方が多くなっている。特に「(9) 子育て」では「夫の担当」が0.0%、「妻の担当」が7.7%と差がみられる。(問5)
- 「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」の理想と現実の比較をみると、理想的には「『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立」が46.2%で最も多くなっているが、現実には「『仕事』を優先」が38.9%で最も多くなっている。また、「『仕事』と『家庭』を両立」をみると、職員意識調査は理想よりも現実の方が多くなっているが、住民意識調査は、理想の方が現実よりも多くなっている。(問7)
- 管理職になりたいと思わない理由を性別にみると、女性では「家庭生活と両立しないから」が最も多くなっているのに対して、男性では「能力がないから」が最も多くなっており、女性と男性では主な理由に違いがみられる。(問8-1)
- 職場の女性または男性に期待することをみると、女性・男性ともに「仕事への意欲」「責任感」「協調性」が上位となっており、期待することに性別による大きな差はない。(問10、問11)
- 育児休業を取るとしたら、ためらいを感じることを性別にみると、女性・男性ともに「職場に迷惑をかけること」が最も多くなっている。女性は、次いで「ためらわず取得する」、「職場復帰が大変そうなこと」となっている一方で、男性は次いで「経済的な難しさ」、「ためらわず取得する」となっている。また、「あまり前例がないこと」との回答は、女性よりも男性の方が多く、女性と男性で大きな差がみられる。(問12)
- 女性の働き方に対する考え方を性別にみると、男性・女性ともに「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が最も多くなっている。女性は、次いで「女性も経済力を持った方がいいと思うから」、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」となっている一方で男性は、次いで「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」、「女性の能力を活用できるから」となっている。(問17)
- 配偶者への暴力(DV)の認識をみると、「(8) なぐる蹴るの暴力をふるう」などの身体的な行為は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっているが、(1) から(3) のような精神的な行為はその割合が少なくなっており、住民意識調査の結果と同じ傾向となっている。(問21)
- 性的少数者が日常生活で困っていると言われることで、知っているものを性別にみると、いずれの項目も女性の認知度の方が高くなっているほか、「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」では、女性と男性で認知度に大きな差がみられる。(問23)

# 第3章 調査結果

## 1 男女平等意識について

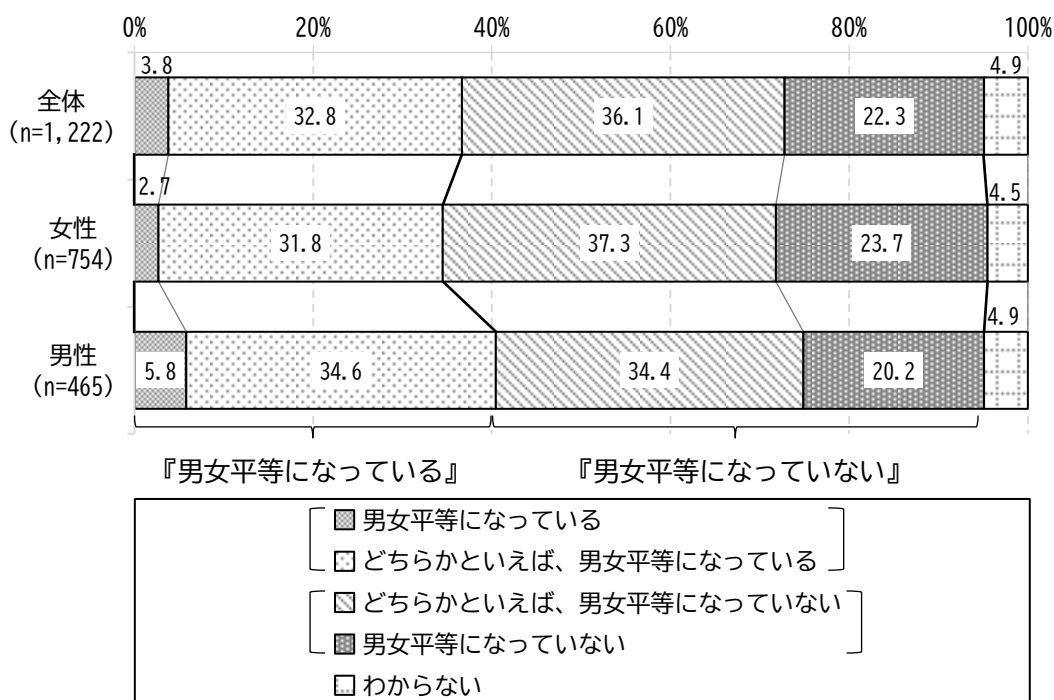
問1 あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(○は1つ)

### 【全体】

「どちらかといえば、男女平等になっていない」が36.1%と最も多く、次いで「どちらかといえば、男女平等になっている」が32.8%、「男女平等になっていない」が22.3%となっている。『男女平等になっている』（「男女平等になっている」と「どちらかといえば、男女平等になっている」の合計）が36.6%、『男女平等になっていない』（「どちらかといえば、男女平等になっていない」と「男女平等になっていない」の合計）が58.4%となっている。

### 【性別】

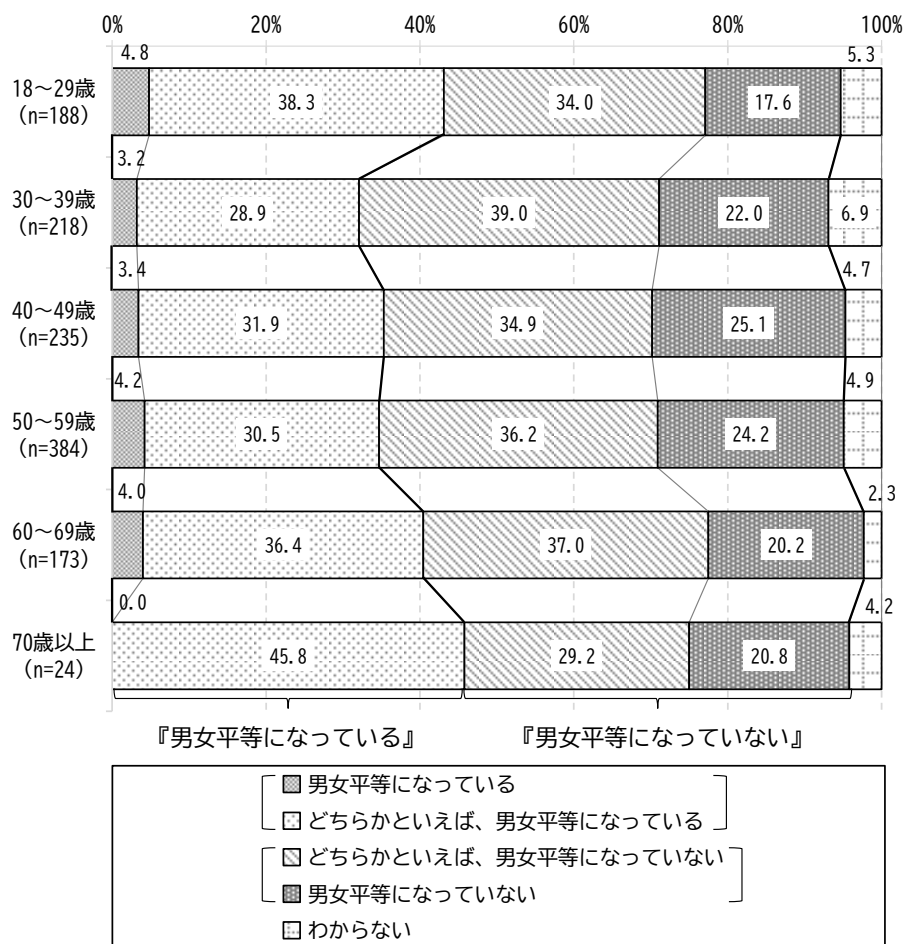
女性・男性ともに『男女平等になっている』が、それぞれ34.5%、40.4%となっており、女性より男性の方が『男女平等になっている』との認識が多くなっている。また、女性・男性ともに『男女平等になっていない』が、それぞれ61.0%、54.6%となっている。





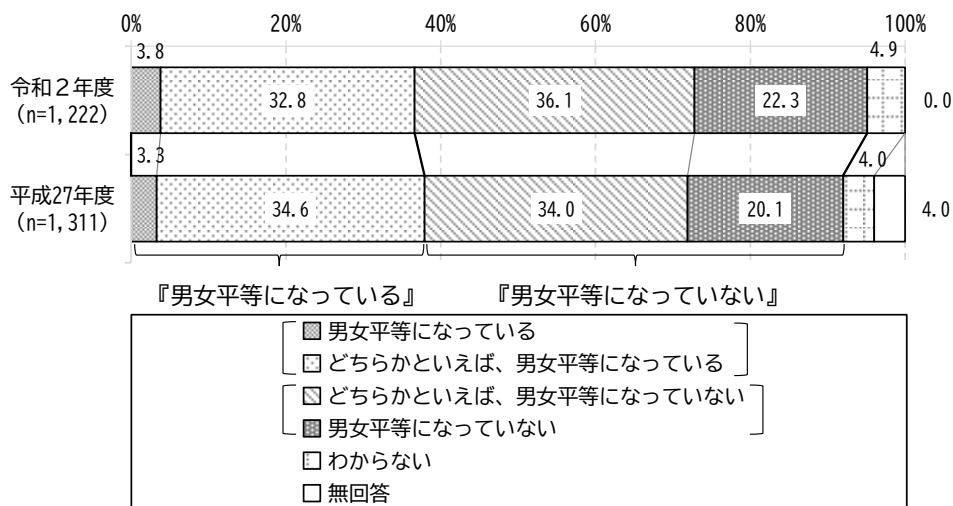
### 【年齢別】

『男女平等になっている』は、60歳以上の年齢層で比較的多くなっているほか、「18～29歳」の若い年齢層でも多くなっている。一方で、『男女平等になっていない』は、30歳代から50歳代で多くなっており、いずれの年齢層でも6割以上となっている。



### 【平成 27 年度調査比較】

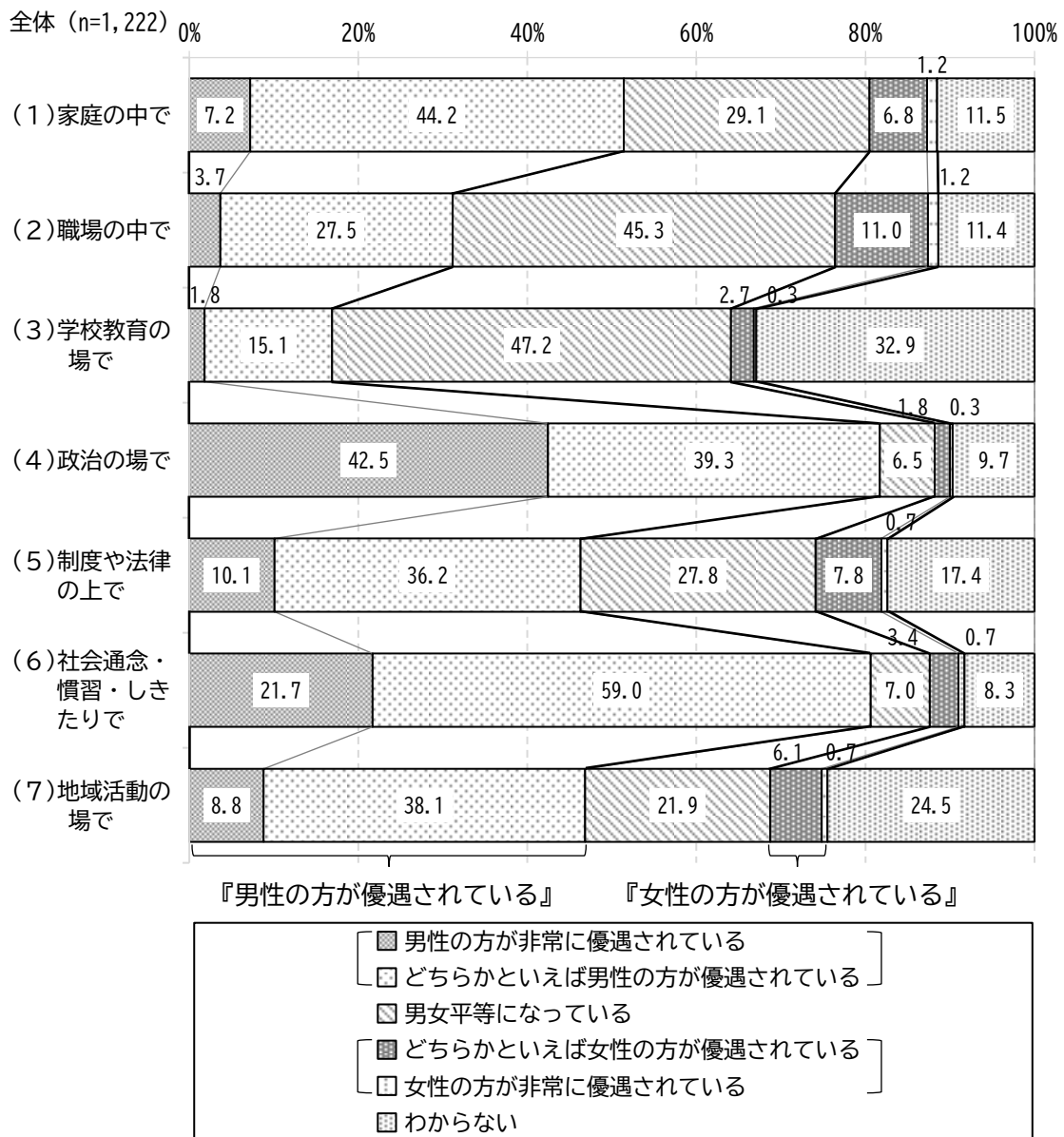
全体として大きな変化はみられない。



問2 次の(1)～(7)の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

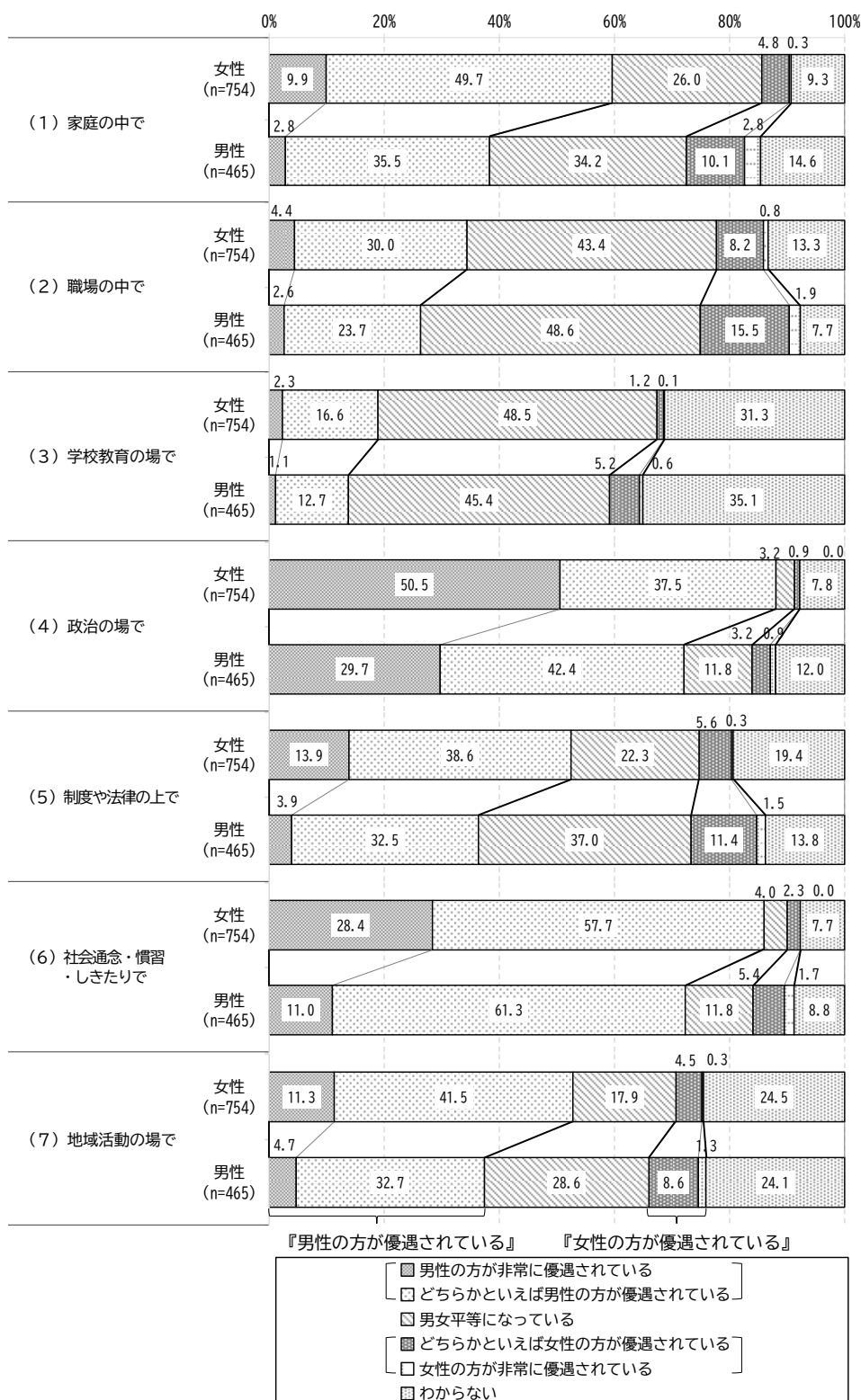
【全体】

「男女平等になっている」で最も多いのが、「(3) 学校教育の場で」が47.2%、次いで「(2) 職場の中で」が45.3%、「(1) 家庭の中で」が29.1%となっている。『男性の方が優遇されている』(「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)を分野で見ると、「(4) 政治の場で」が81.8%、「(6) 社会通念・慣習・しきたり」が80.7%となっており、他の分野に比べ特に多くなっている。



## 【性別】

『男性の方が優遇されている』を分野で見ると、「(1) 家庭の中で」では女性 59.6%、男性 38.3% となっており、性別による大きな差がみられる。また、「男性の方が非常に優遇されている」を分野で見ると、「(4) 政治の場で」では女性 50.5%、男性 29.7% となっており、他の分野に比べ特に多くなっている。



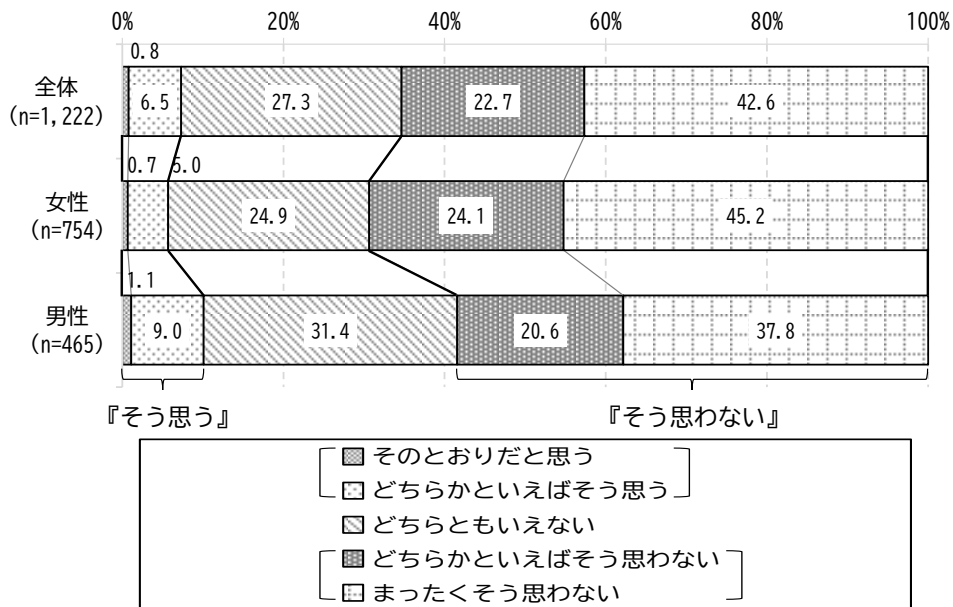
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

【全体】

「まったくそう思わない」が42.6%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が27.3%、「どちらかといえばそう思わない」が22.7%となっている。『そう思う』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が7.3%、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計）が65.3%となっている。

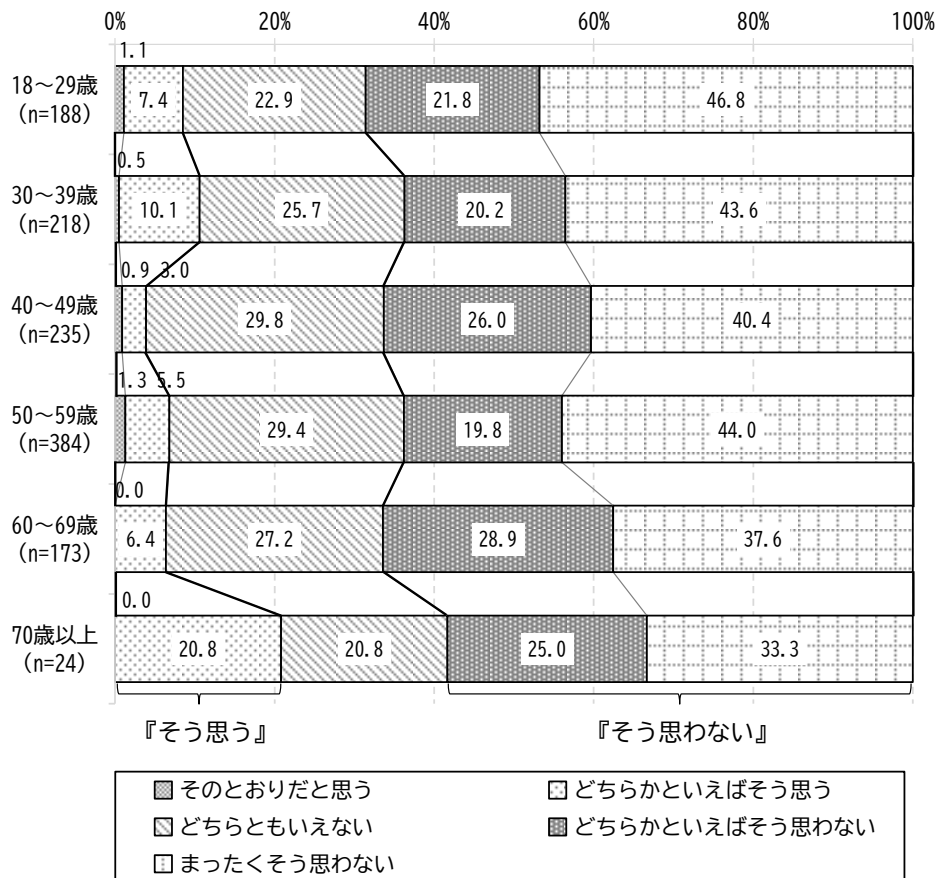
【性別】

女性は『そう思う』が5.7%、『そう思わない』が69.3%となっている。一方で、男性は『そう思う』が10.1%、『そう思わない』が58.4%となっており、男性より女性の方が『そう思わない』が多くなっている。



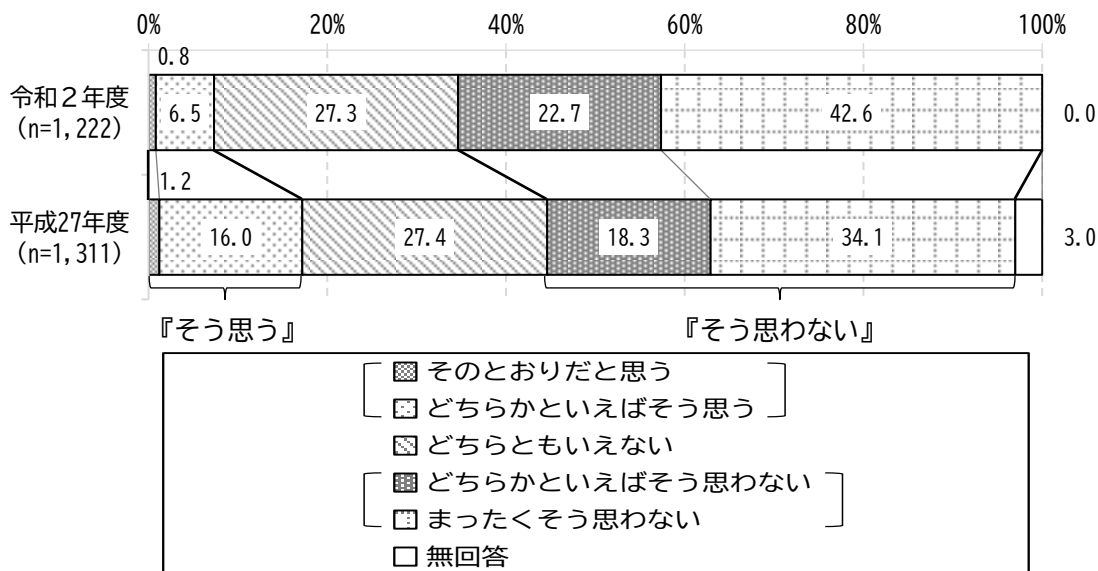
### 【年齢別】

いずれの年齢層においても『そう思わない』が半数以上となっており、特に「18～29歳」では68.6%と多くなっている。



### 【平成27年度調査比較】

『そう思わない』は平成27年度の52.4%から65.3%に増加している。



問4 「子育ては母親の役割」、「家事は女性の役割」、「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれ選んでください。(○は1つずつ)

**【全体】**

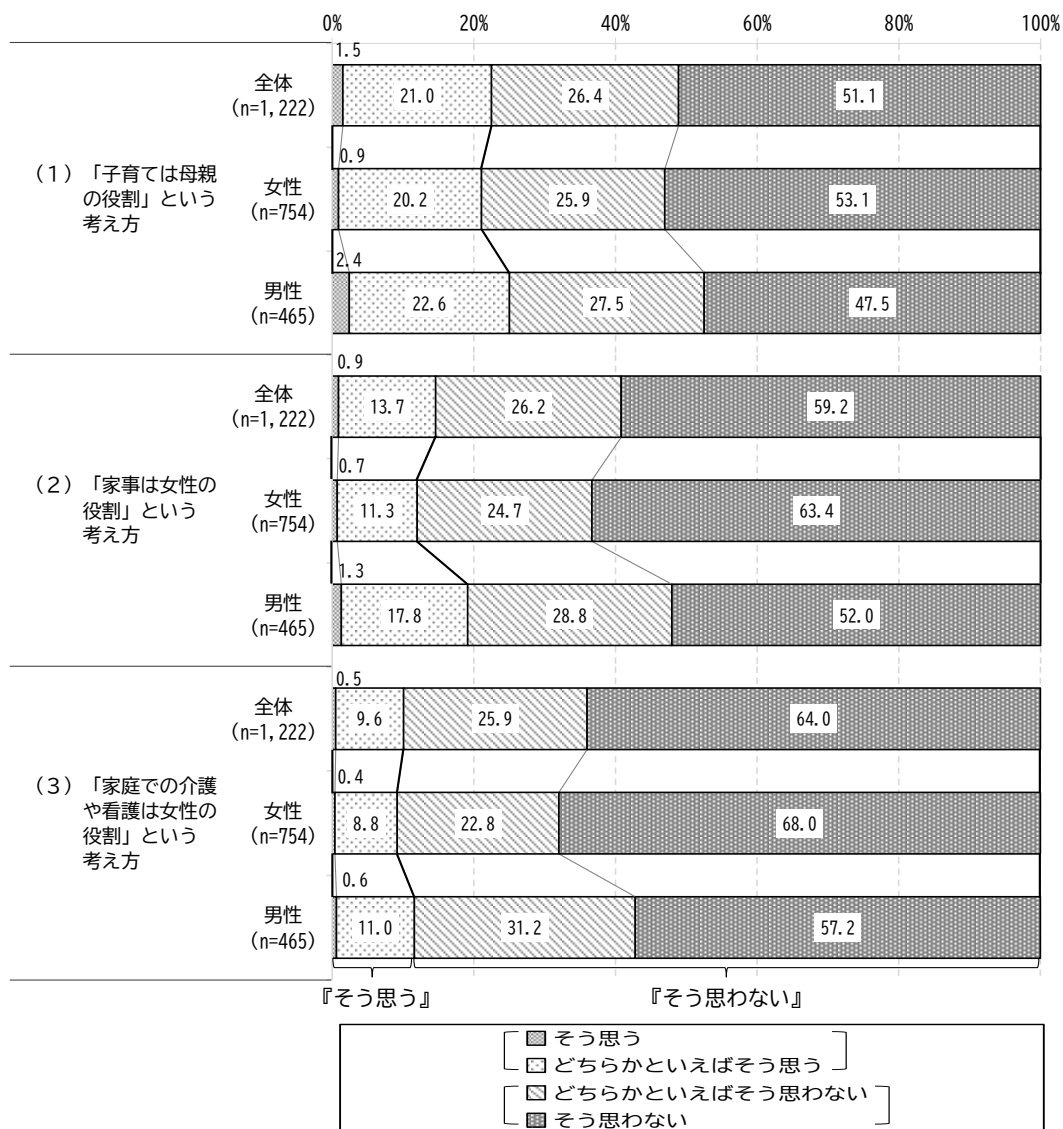
「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」では、「そう思わない」が51.1%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が26.4%、「どちらかといえばそう思う」が21.0%となっている。

「(2)『家事は女性の役割』という考え方」では、「そう思わない」が59.2%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が26.2%、「どちらかといえばそう思う」が13.7%となっている。

「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』という考え方」では、「そう思わない」が64.0%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が25.9%、「どちらかといえばそう思う」が9.6%となっている。

**【性別】**

女性・男性ともにいずれの項目においても、「そう思わない」が多くなっており、特に女性で多くなっている。



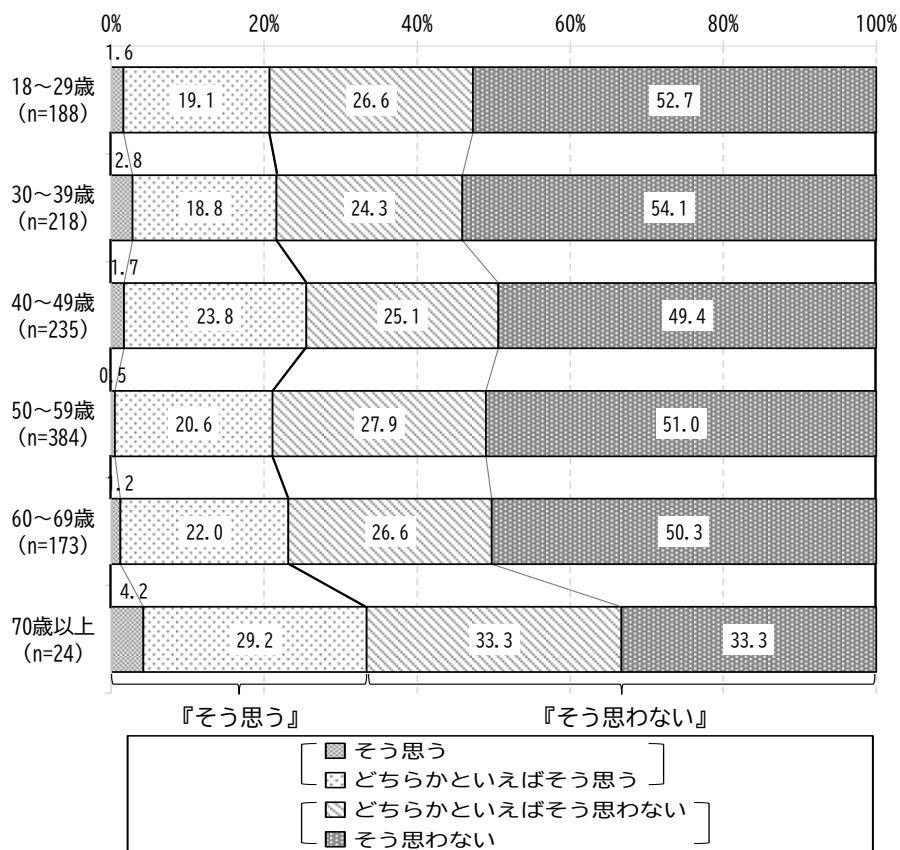
## 【年齢別】

「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」は、いずれの年齢層においても『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）が半数以上と多くなっており、最も多い「18～29歳」では79.3%、次いで「50～59歳」では78.9%となっている。

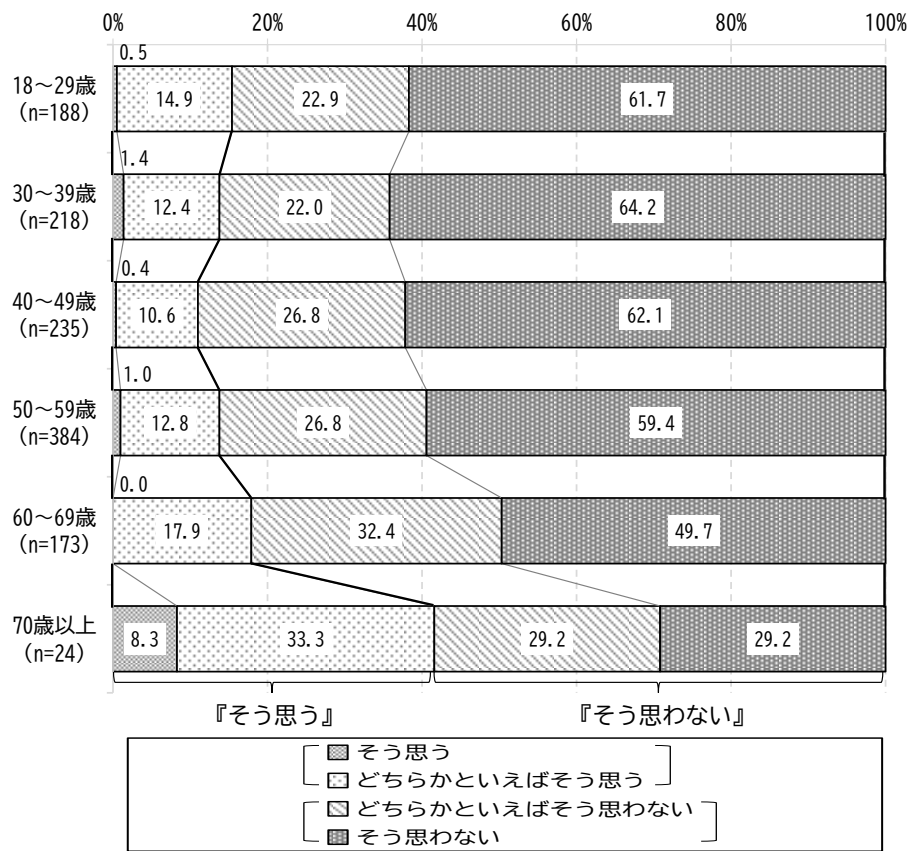
「(2)『家事は女性の役割』という考え方」は、いずれの年齢層においても『そう思わない』が半数以上と多くなっており、最も多い「40～49歳」では88.9%、次いで「30～39歳」、「50～59歳」では86.2%となっている。

「(3)『家庭での介護や看護は女性の役割』という考え方」は、いずれの年齢層においても『そう思わない』が8割以上と多くなっており、最も多い「30～39歳」では92.2%、次いで「18～29歳」では91.5%となっている。

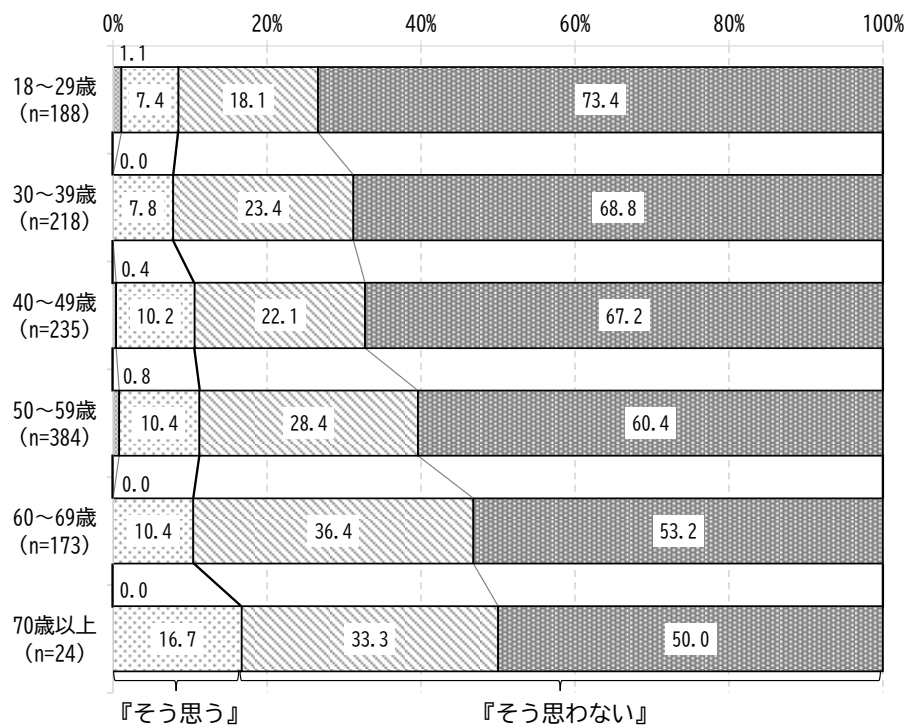
### (1) 「子育ては母親の役割」という考え方



(2) 「家事は女性の役割」という考え方



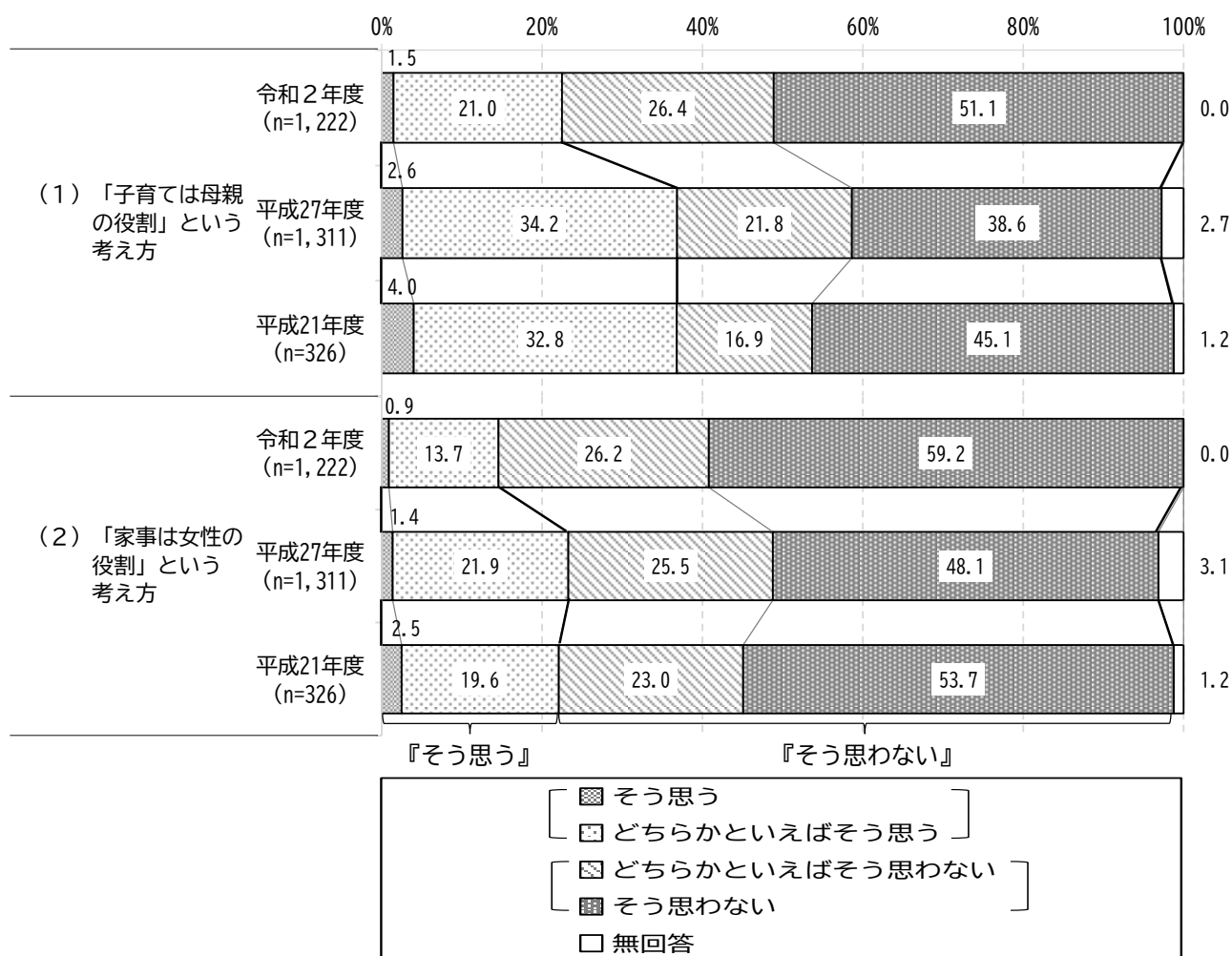
(3) 「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方





【平成 21 年度・27 年度調査比較】

「(1)『子育ては母親の役割』という考え方」は、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計) が平成 27 年度の 36.8%から 22.5%へ減少している。「(2)『家事は女性の役割』という考え方」は、『そう思う』が平成 27 年度の 23.3%から 14.6%へ減少している。



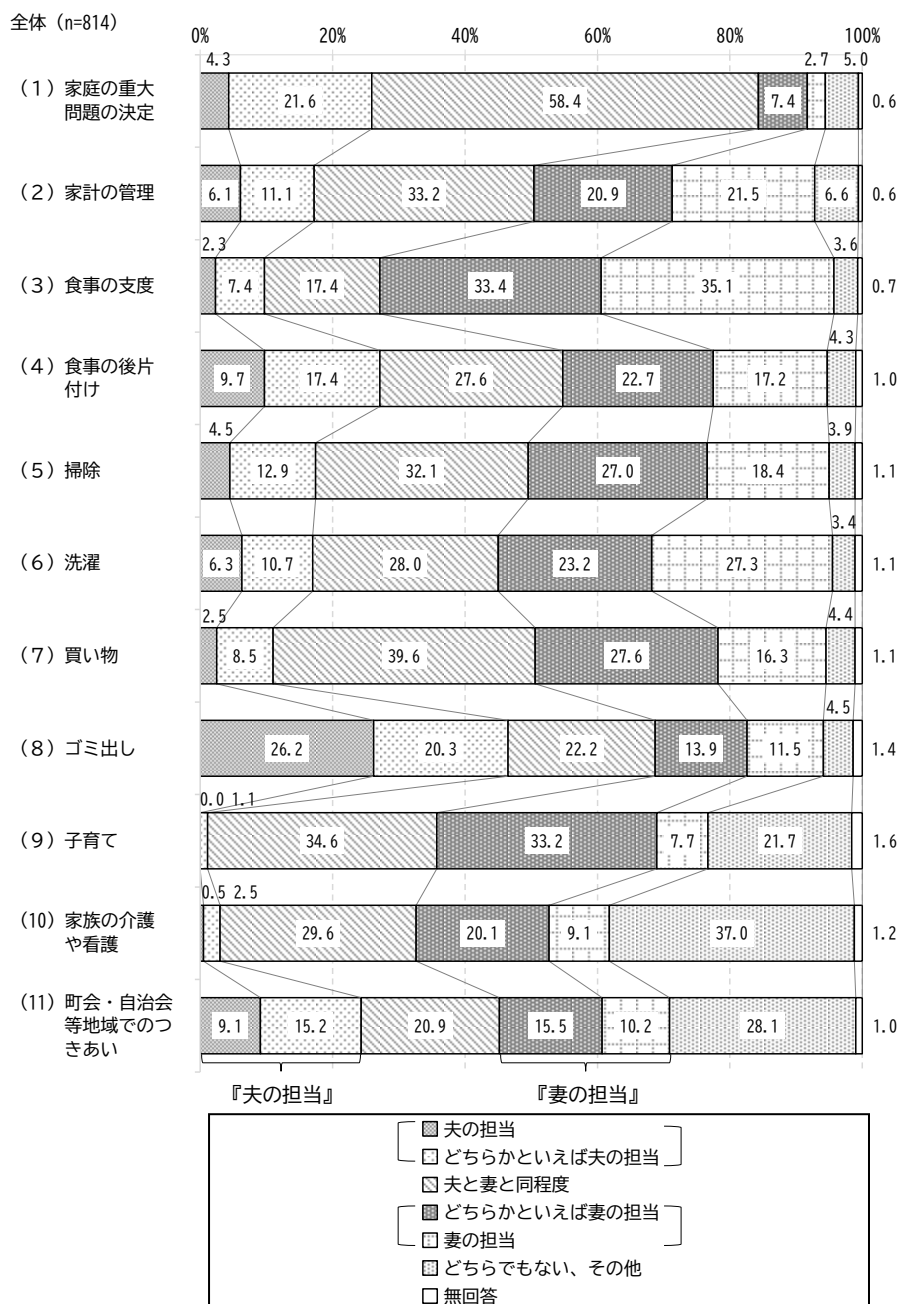
※平成 21 年度及び平成 27 年度調査では「(3) 家庭での介護や看護は女性の役割」の項目がなかったため、「(1)「子育ては母親の役割」という考え方」、「(2)「家事は女性の役割」という考え方」の 2 項目についてのみ過去の調査との比較を行っています。

## 2 家庭生活について

問5 既婚（事実婚を含む）の方にお聞きします。あなたの家庭では家事、育児などの分担はどのようにしていますか。（1）～（11）について、それぞれ選んでください。（○は1つずつ）

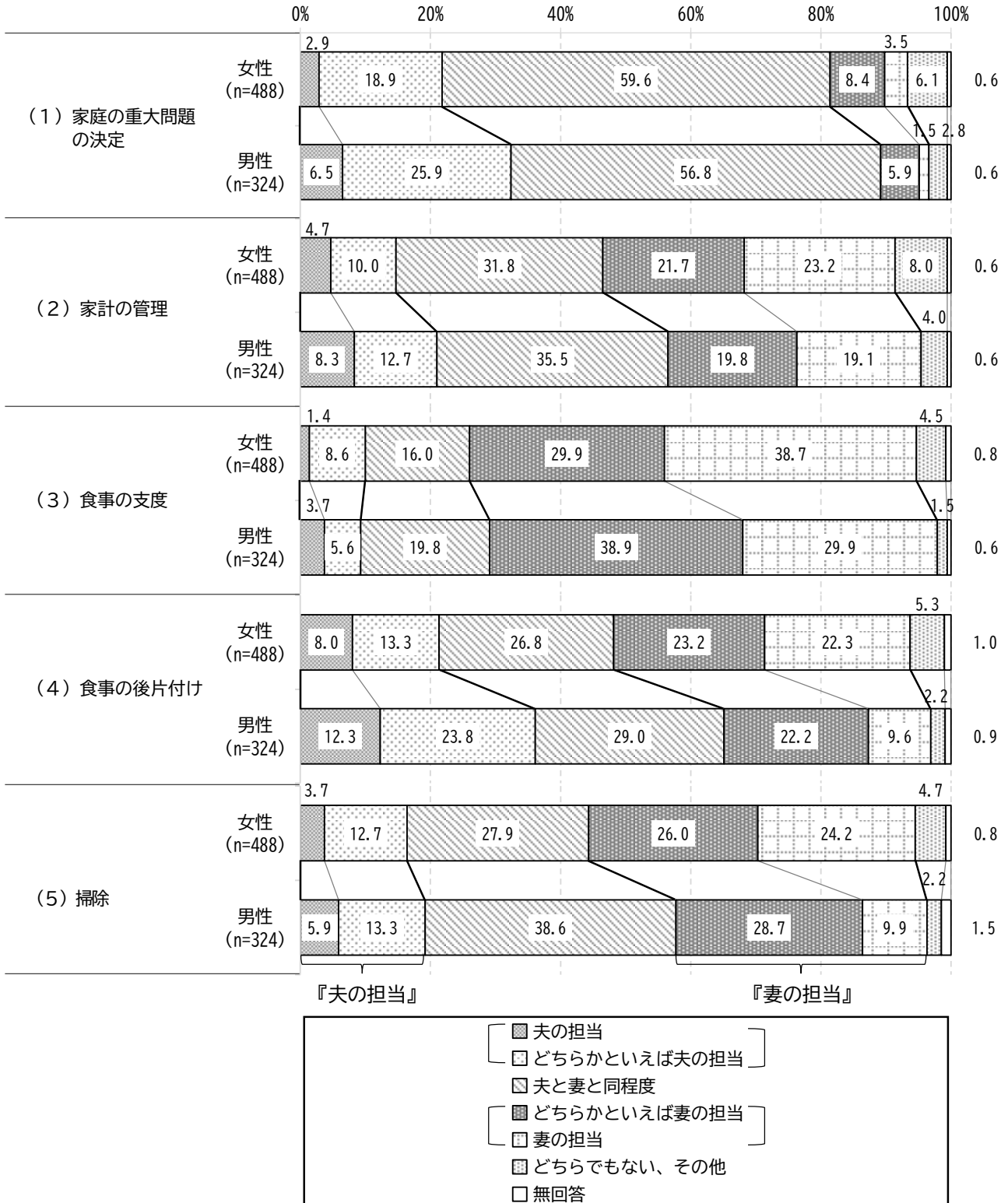
### 【全体】

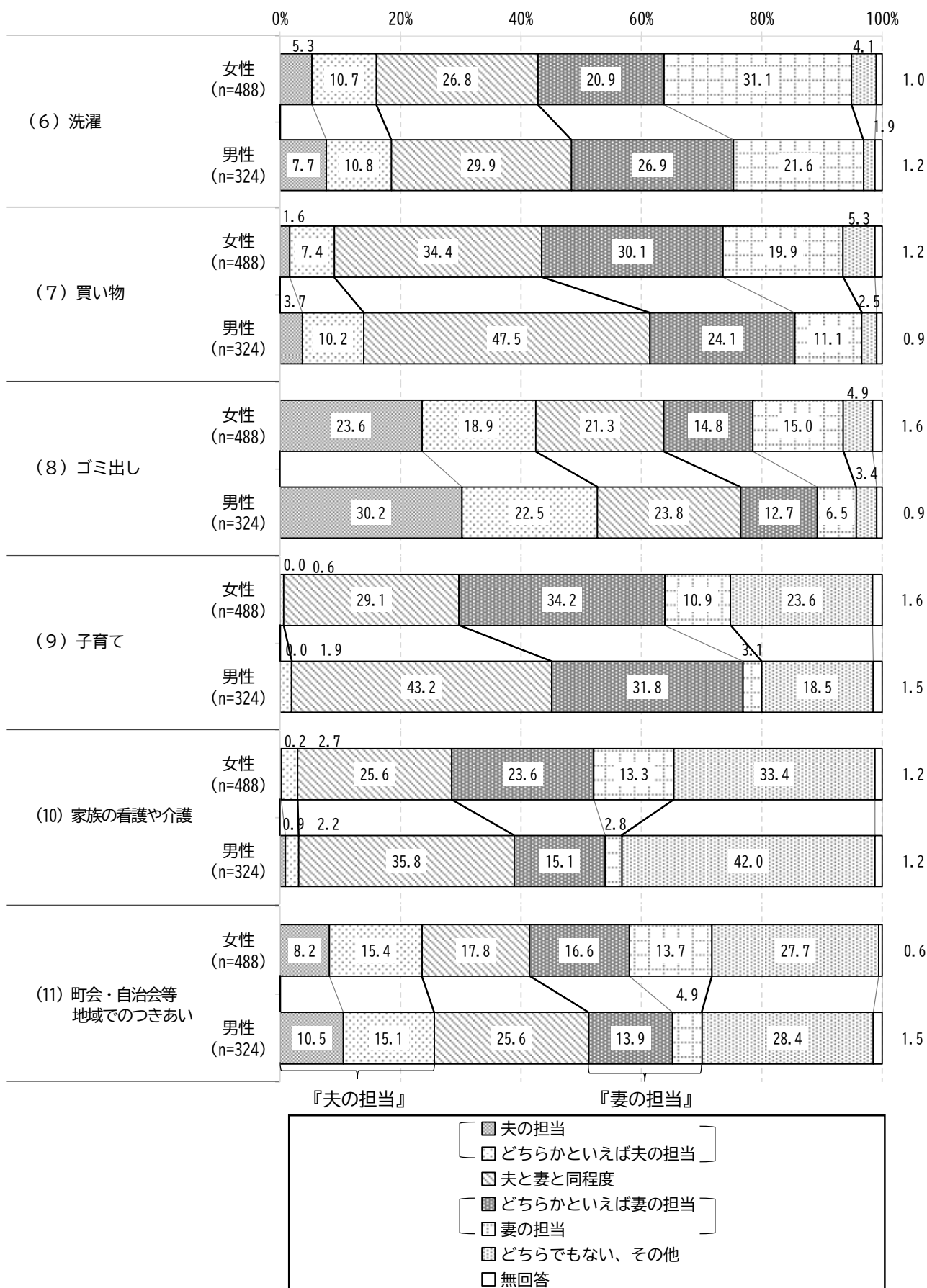
『夫の担当』（「夫の担当」と「どちらかといえば夫の担当」の合計）を分野で見ると、「（8）ゴミ出し」が46.5%となっており、他の分野に比べ特に多くなっている。また『妻の担当』（「妻の担当」と「どちらかといえば妻の担当」の合計）を分野で見ると、「（3）食事の支度」が68.5%となっており、他の分野に比べ特に多くなっている。さらに、「（9）子育て」については、『夫の担当』1.1%、『妻の担当』40.9%で、夫と妻で大きな差がある。



【性別】

『妻の担当』を分野で見ると、「(10) 家族の看護や介護」において、女性 36.9%、男性 17.9%となっており、他の分野に比べ、性別で認識の差がみられる。また、『夫の担当』を分野で見ると、「(4) 食事の後片付け」において、女性 21.3%、男性 36.1%となっており、他の分野に比べ、性別で認識の差がみられる。





### 3 職業について

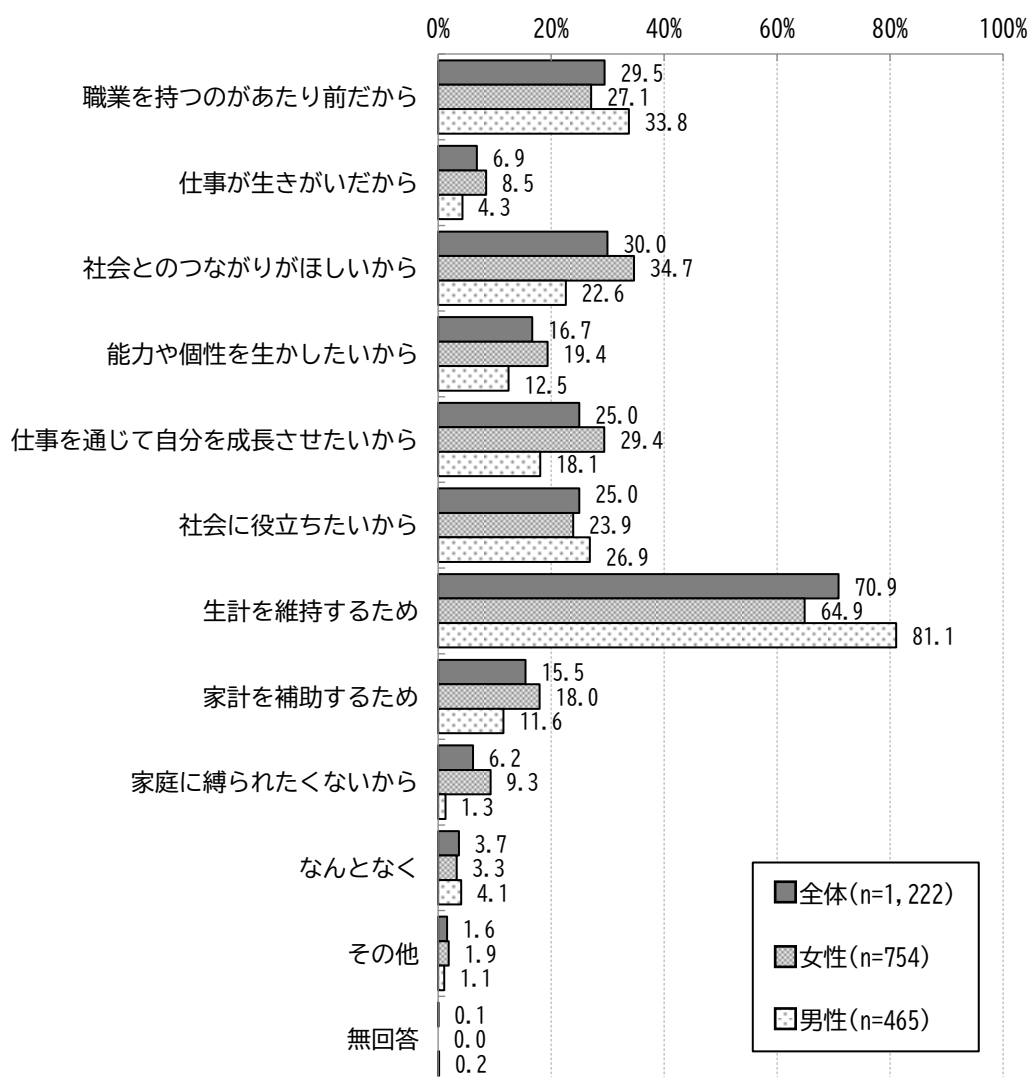
問6 あなたが現在働いている理由は何ですか。(〇は3つまで)

#### 【全体】

「生計を維持するため」が70.9%と最も多く、次いで「社会とのつながりがほしいから」が30.0%、「職業を持つのがあたり前だから」が29.5%となっている。

#### 【性別】

女性・男性ともに「生計を維持するため」が最も多く、次いで女性は「社会とのつながりがほしいから」、男性は「職業を持つのがあたり前だから」となっている。



問7 あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。(〇は1つずつ)

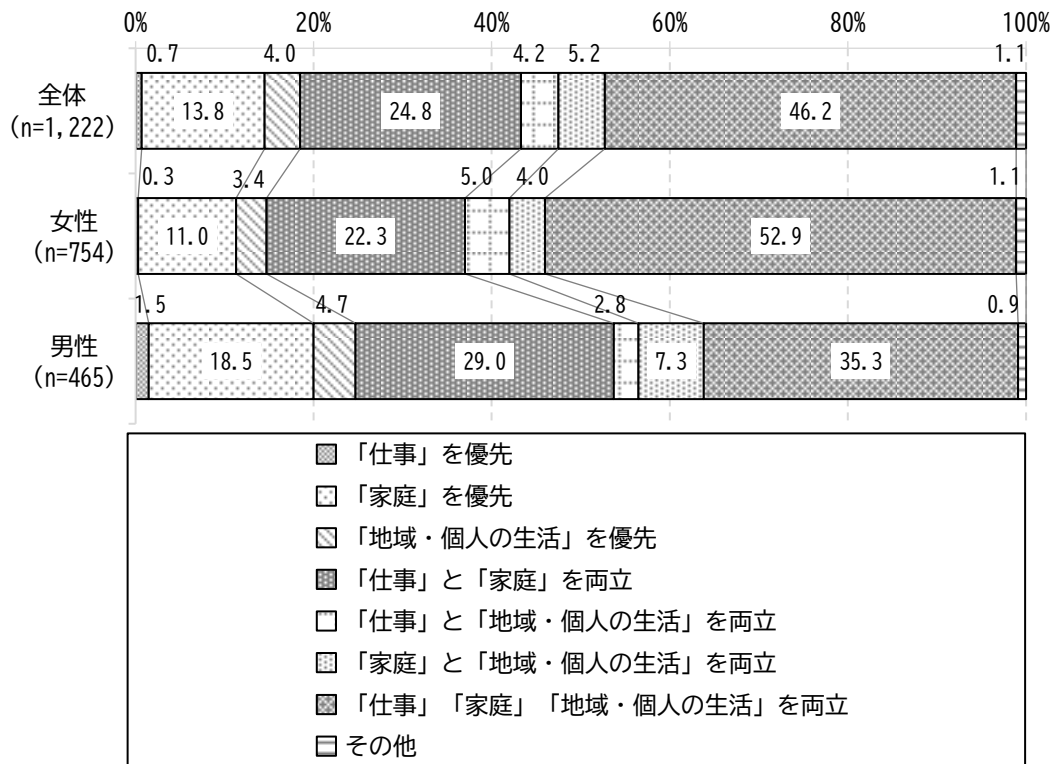
(1) 理想

【全体】

『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が46.2%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立が24.8%、『家庭』を優先が13.8%となっている。

【性別】

女性・男性ともに『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立となっている。



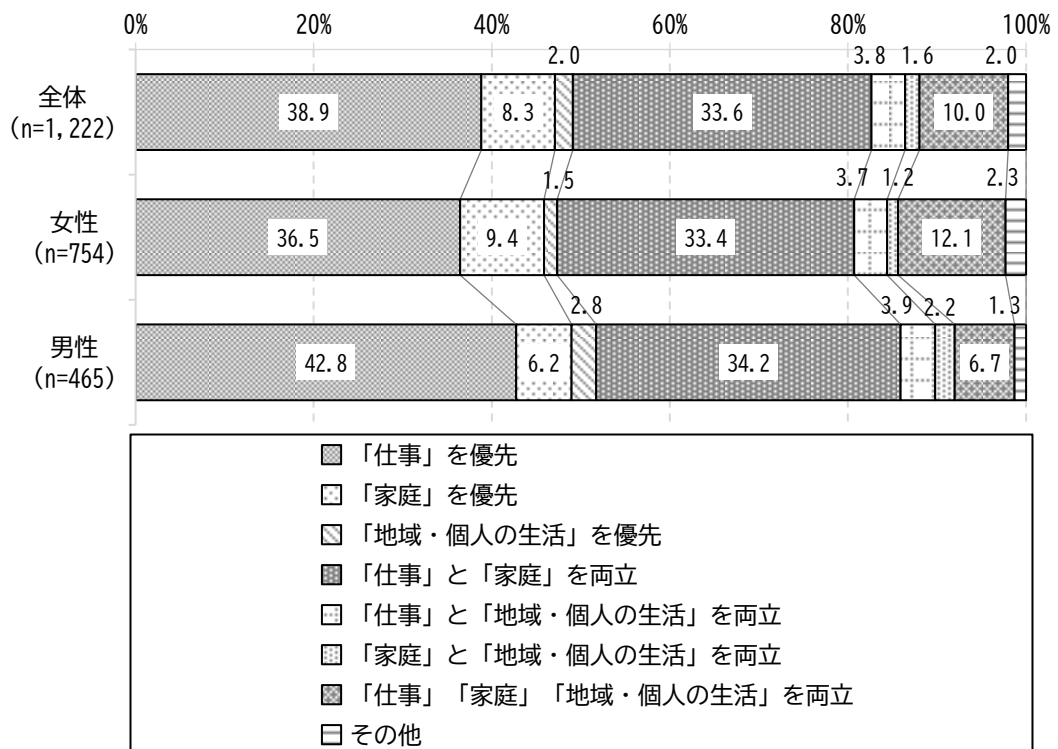
(2) 現実

【全体】

『仕事』を優先が38.9%と最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立が33.6%、『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立が10.0%となっている。

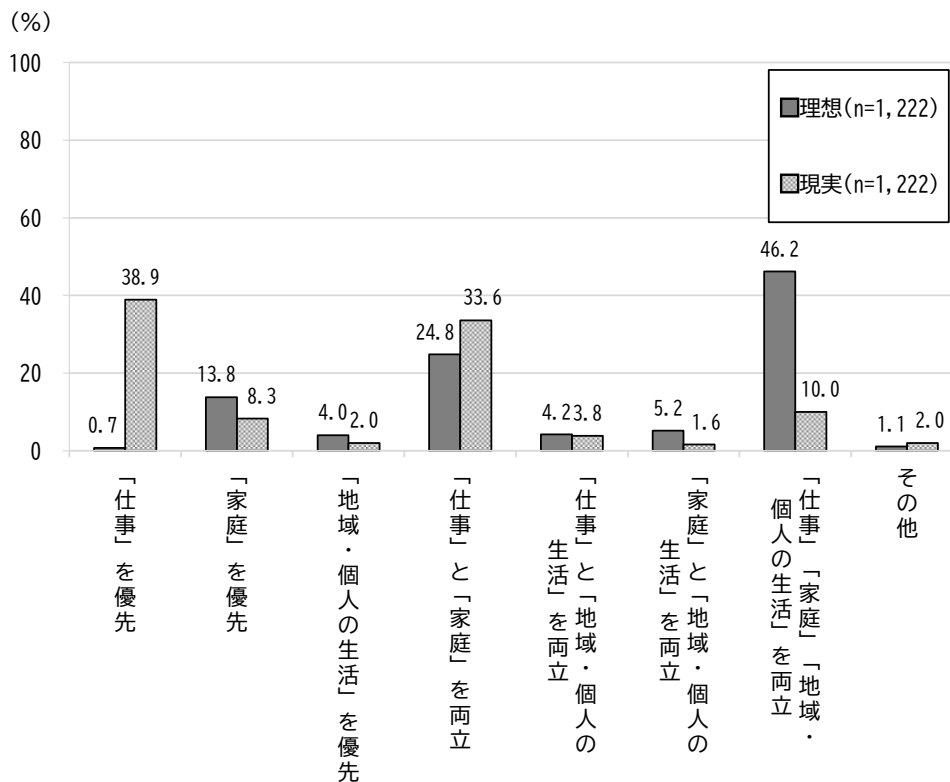
【性別】

女性・男性ともに『仕事』を優先が最も多く、次いで『仕事』と『家庭』を両立となっている。



### 【理想と現実の比較】

理想は「『仕事』『家庭』『地域・個人の生活』を両立」が46.2%と最も多いが、現実には10.0%となっている。また、現実には「『仕事』を優先」が最も多く、38.9%となっている。





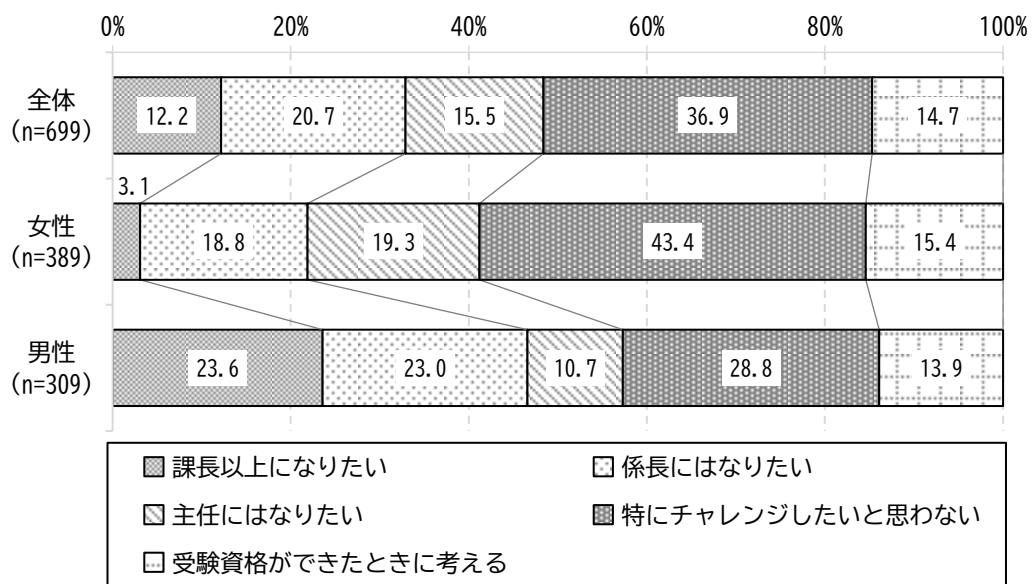
問8 管理職、再任用、会計年度任用職員以外の方にお聞きします。あなたが定年まで勤めるとして、どこまでチャレンジしますか。(〇は1つ)

**【全体】**

「特にチャレンジしたいと思わない」が36.9%と最も多く、次いで「係長にはなりたい」が20.7%、「主任にはなりたい」が15.5%となっている。

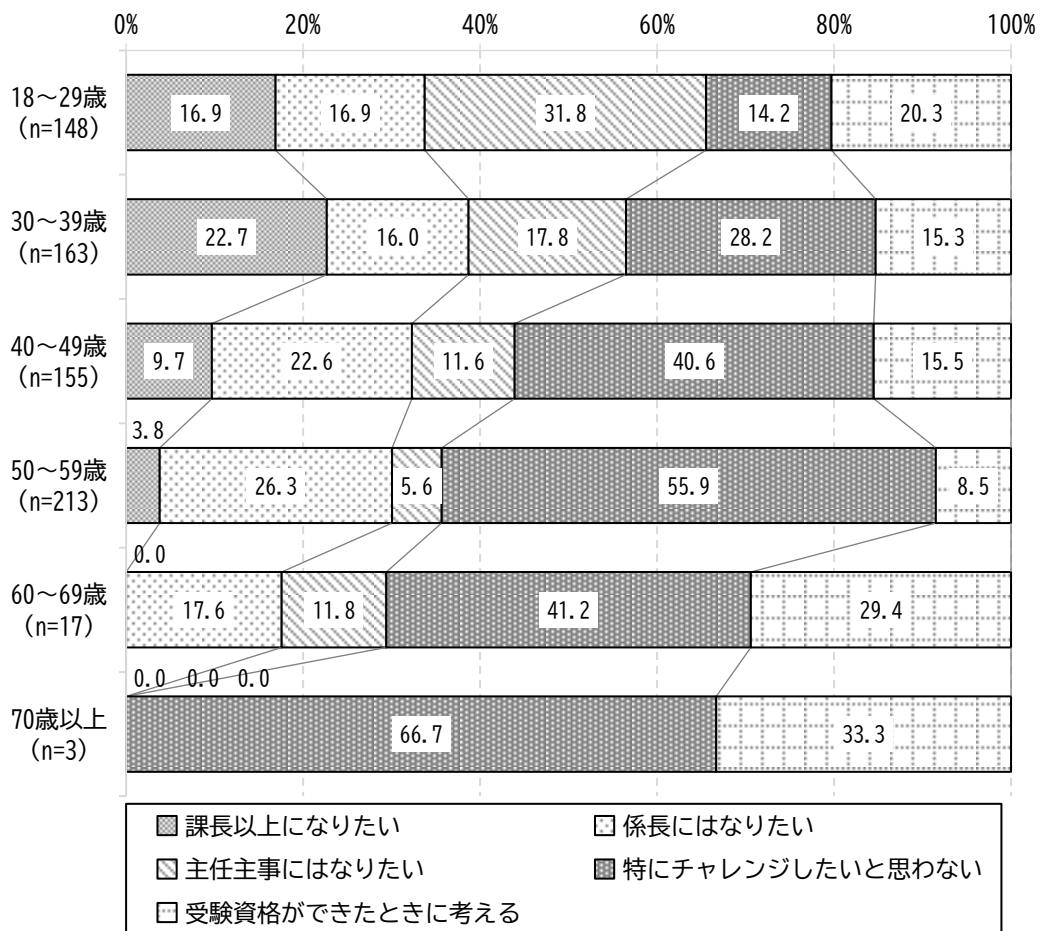
**【性別】**

女性・男性ともに「特にチャレンジしたいと思わない」が最も多く、次いで女性は「主任にはなりたい」、男性は「課長以上になりたい」となっている。



### 【年齢別】

「18～29歳」は「主任にはなりたい」が31.8%と最も多くなっているのに対して、30歳以上になると「特にチャレンジしたいと思わない」が最も多くなっている。



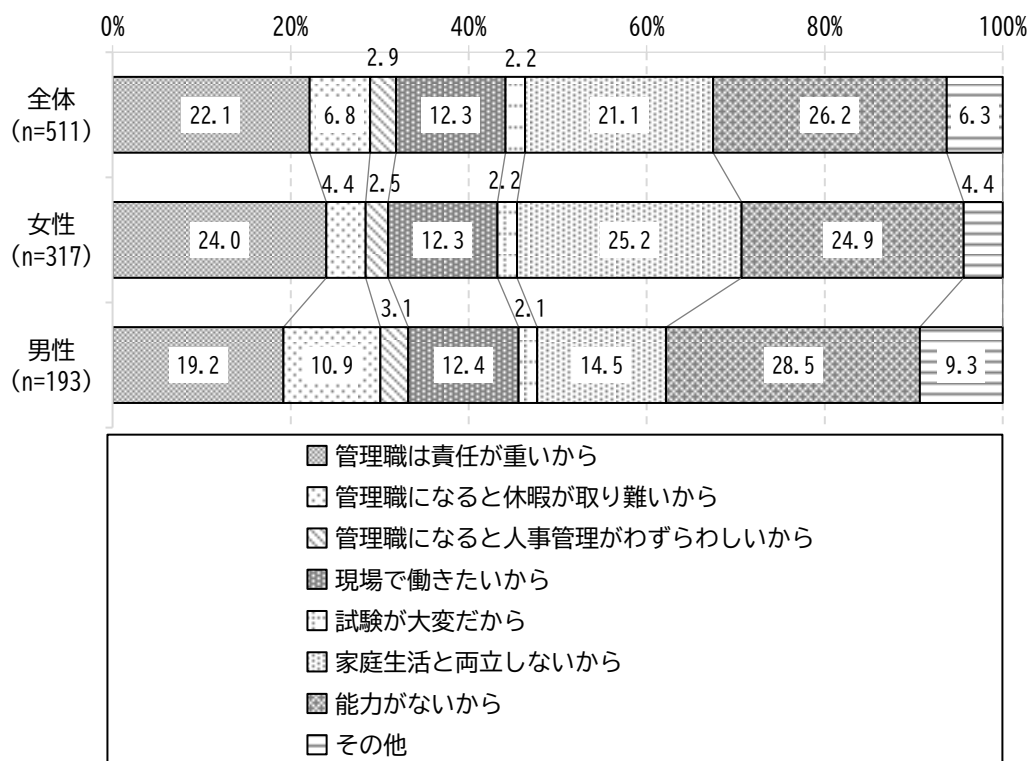
問8-1 管理職になりたいと思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

【全体】

「能力がないから」が26.2%と最も多く、次いで「管理職は責任が重いから」が22.1%、「家庭生活と両立しないから」が21.1%となっている。

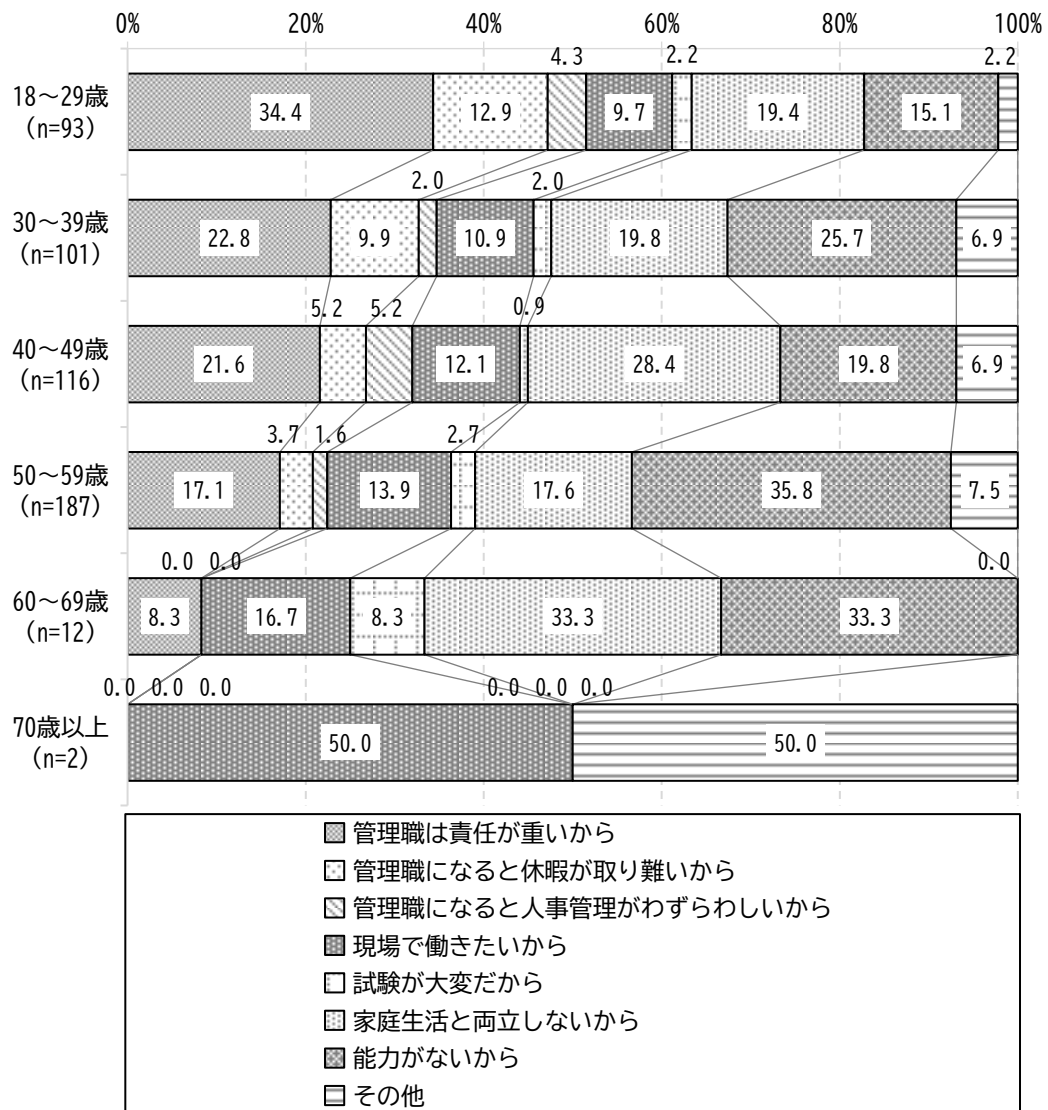
【性別】

女性は「家庭生活と両立しないから」が最も多く、次いで「能力がないから」となっている。男性は「能力がないから」が最も多く、次いで「管理職は責任が重いから」となっている。また、「家庭生活と両立しないから」については、女性 25.2%、男性 14.5%となっており、性別による差がみられる。



### 【年齢別】

「18～29歳」は「管理職は責任が重いから」が最も多く34.4%、「30～39歳」、「50～59歳」は「能力がないから」が最も多く、それぞれ25.7%、35.8%となっている。また、「40～49歳」は「家庭生活と両立しないから」が28.4%と最も多くなっている。



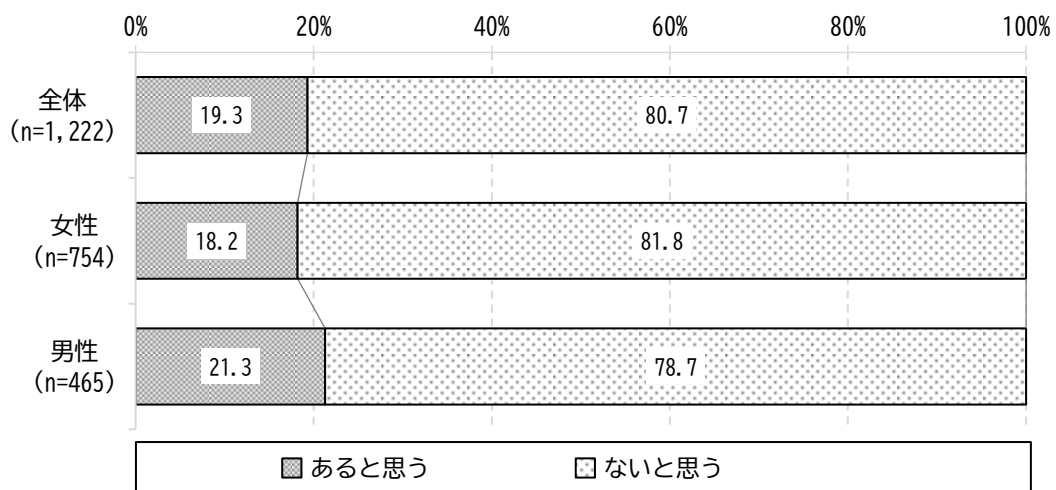
問9 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女の扱いに差はありますか。(〇は1つ)

【全体】

「ないと思う」が80.7%、「あると思う」が19.3%となっている。

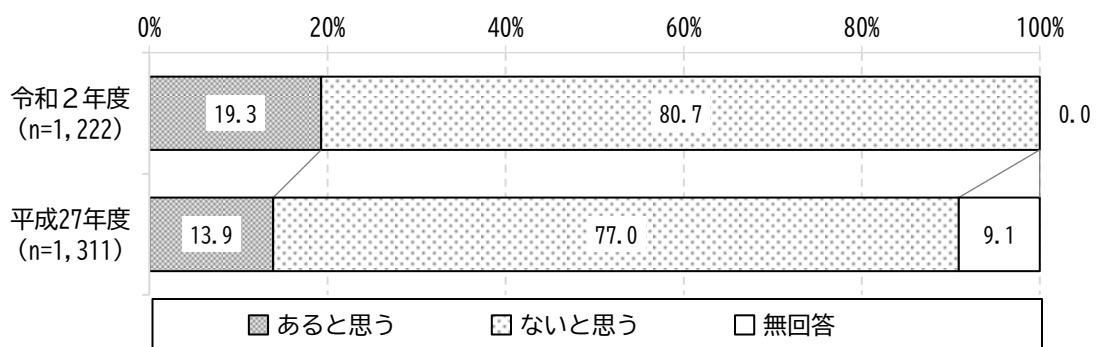
【性別】

女性は「ないと思う」が81.8%、「あると思う」が18.2%となっている。また、男性は「ないと思う」が78.7%、「あると思う」が21.3%となっている。



【平成27年度調査比較】

「あると思う」が平成27年度の13.9%から19.3%へ増加している。



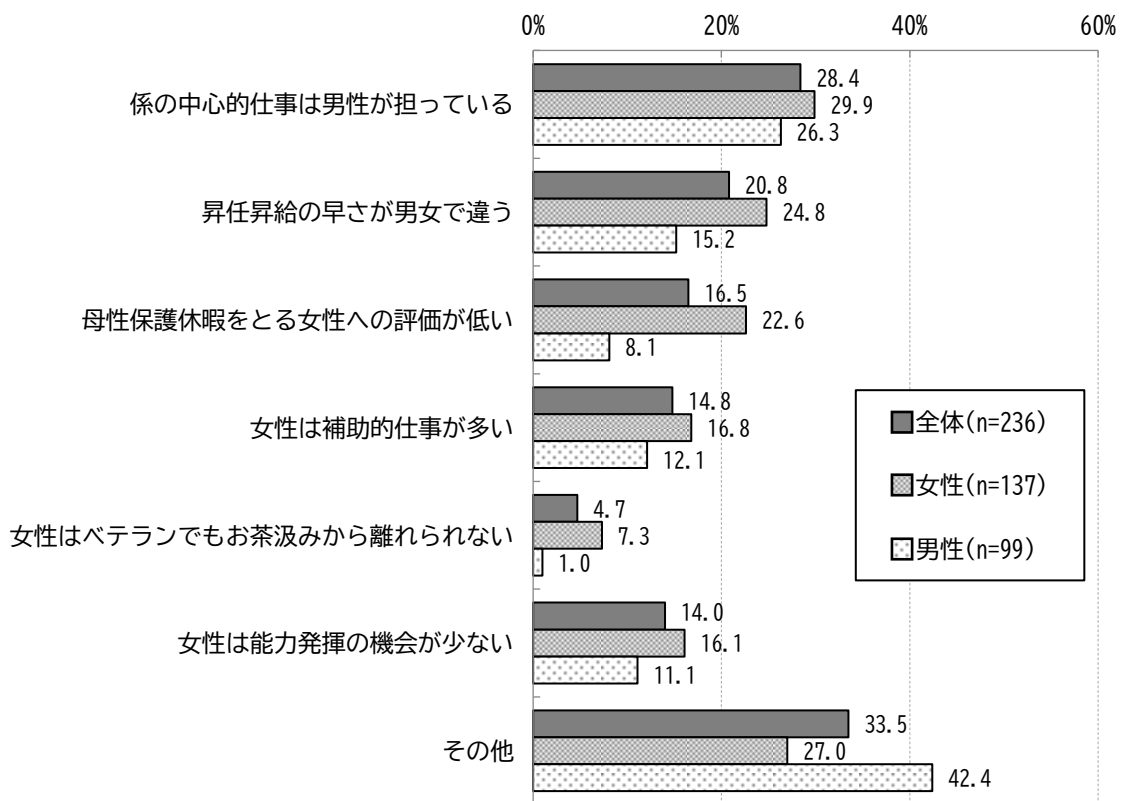
問9-1 それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【全体】

「その他」の自由回答を除くと、「係の中心的工作は男性が担っている」が28.4%と最も多く、次いで「昇任昇給の早さが男女で違う」が20.8%となっている。

【性別】

「その他」の自由回答を除くと、女性・男性ともに「係の中心的工作は男性が担っている」が最も多く、次いで「昇任昇給の早さが男女で違う」となっている。また、「母性保護休暇をとる女性への評価が低い」については、女性22.6%、男性8.1%となっており、性別による差がみられる。



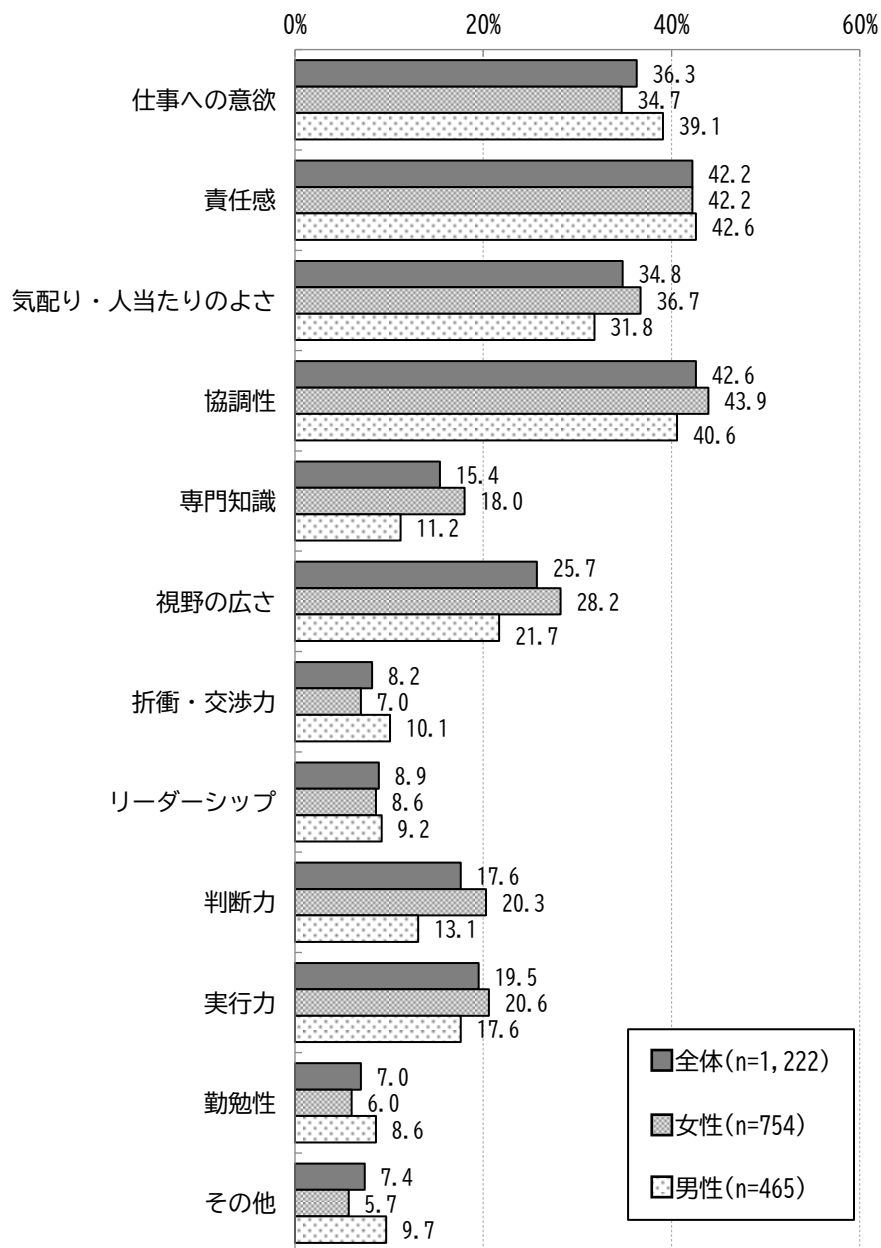
問 10 あなたが職場の女性に期待することは主にどんなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

「協調性」が42.6%と最も多く、次いで「責任感」が42.2%、「仕事への意欲」が36.3%となっている。

【性別】

女性が職場の女性に期待することは「協調性」が最も多く、次いで「責任感」となっている。男性が職場の女性に期待することは「責任感」が最も多く、次いで「協調性」となっている。



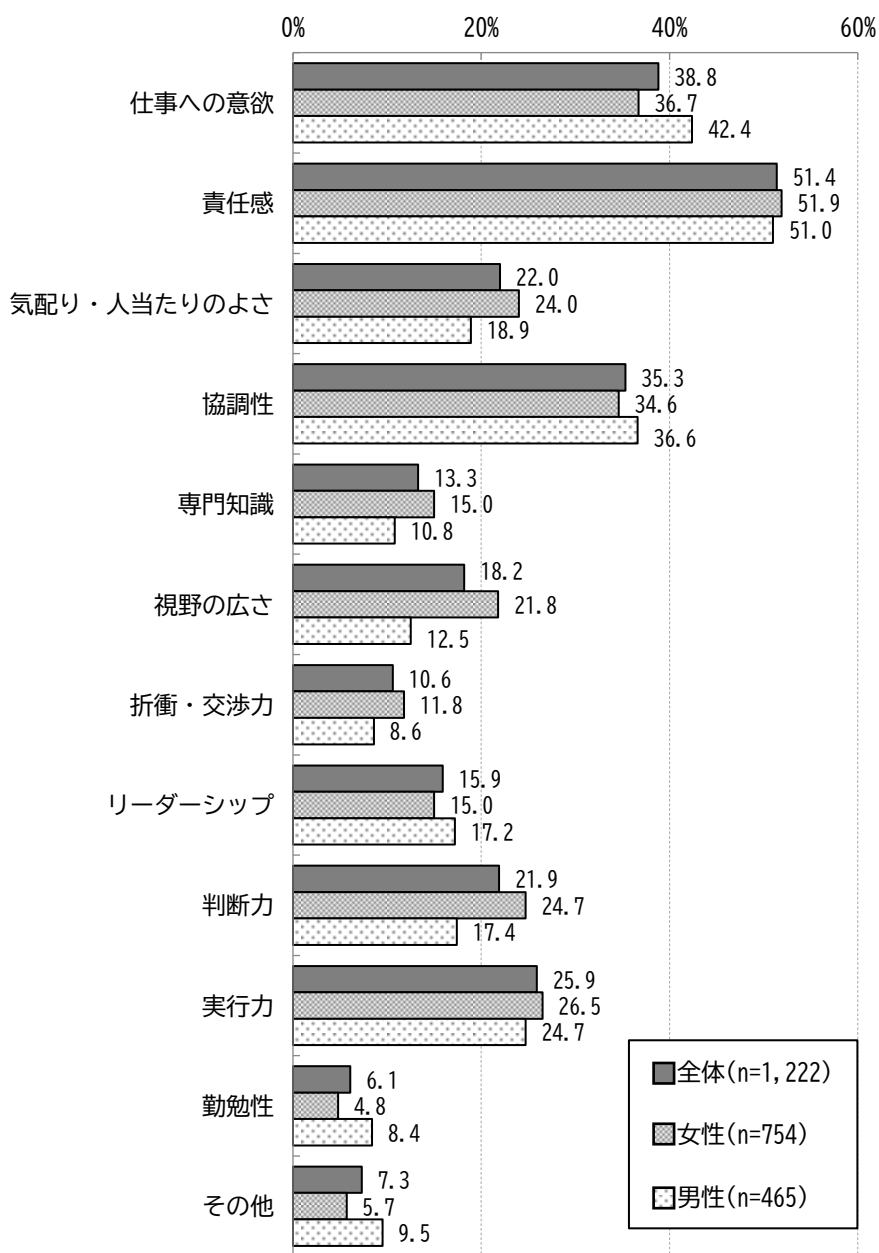
問 11 あなたが職場の男性に期待することは主にどんなことですか。(〇は3つまで)

【全体】

「責任感」が51.4%と最も多く、次いで「仕事への意欲」が38.8%、「協調性」が35.3%となっている。

【性別】

女性・男性ともに職場の男性に期待することは、「責任感」が最も多く、次いで「仕事への意欲」となっている。また、「視野の広さ」については、女性21.8%、男性12.5%となっており、性別による差がみられる。





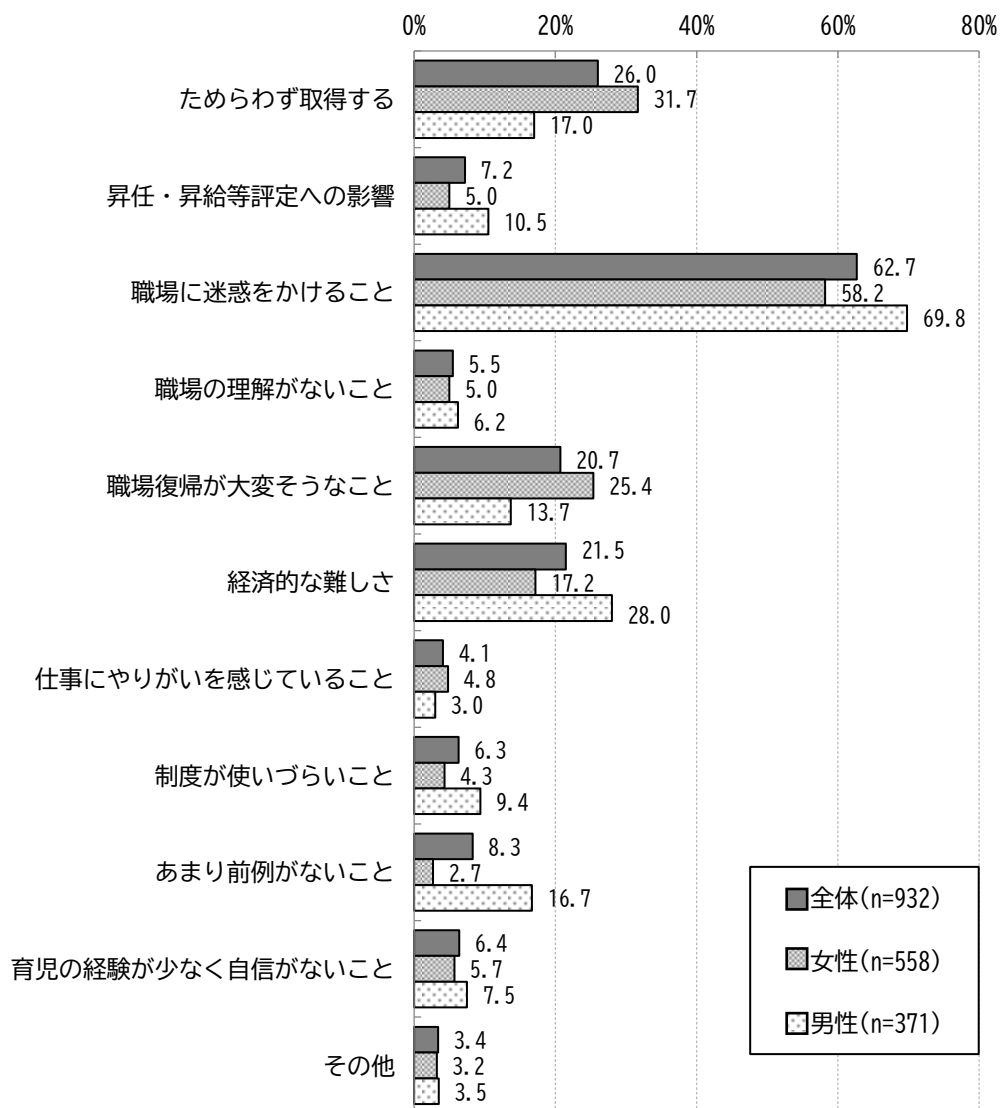
問 12 勤続1年以上で月13日以上勤務している方にお聞きます。今、あなたが育児休業を取るとしたら、どのようなことにためらいを感じますか。(〇はいくつでも)

【全体】

「職場に迷惑をかけること」が62.7%と最も多く、次いで「ためらわず取得する」が26.0%、「経済的な難しさ」が21.5%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「職場に迷惑をかけること」が最も多く、次いで女性は「ためらわず取得する」、男性は「経済的な難しさ」となっている。また、「ためらわず取得する」については、女性31.7%、男性17.0%となっており、性別による差がみられる。そのほか、「職場復帰が大変そうなこと」については女性の回答が多く、「職場に迷惑をかけること」、「経済的な難しさ」、「あまり前例がないこと」については、男性の回答が多くなっており、性別による差がみられる。



※勤続1年以上で月13日以上勤務している人のうち、問12、問13のいずれか一方にのみ回答した人がいたため、問12と問13で母数が異なります。

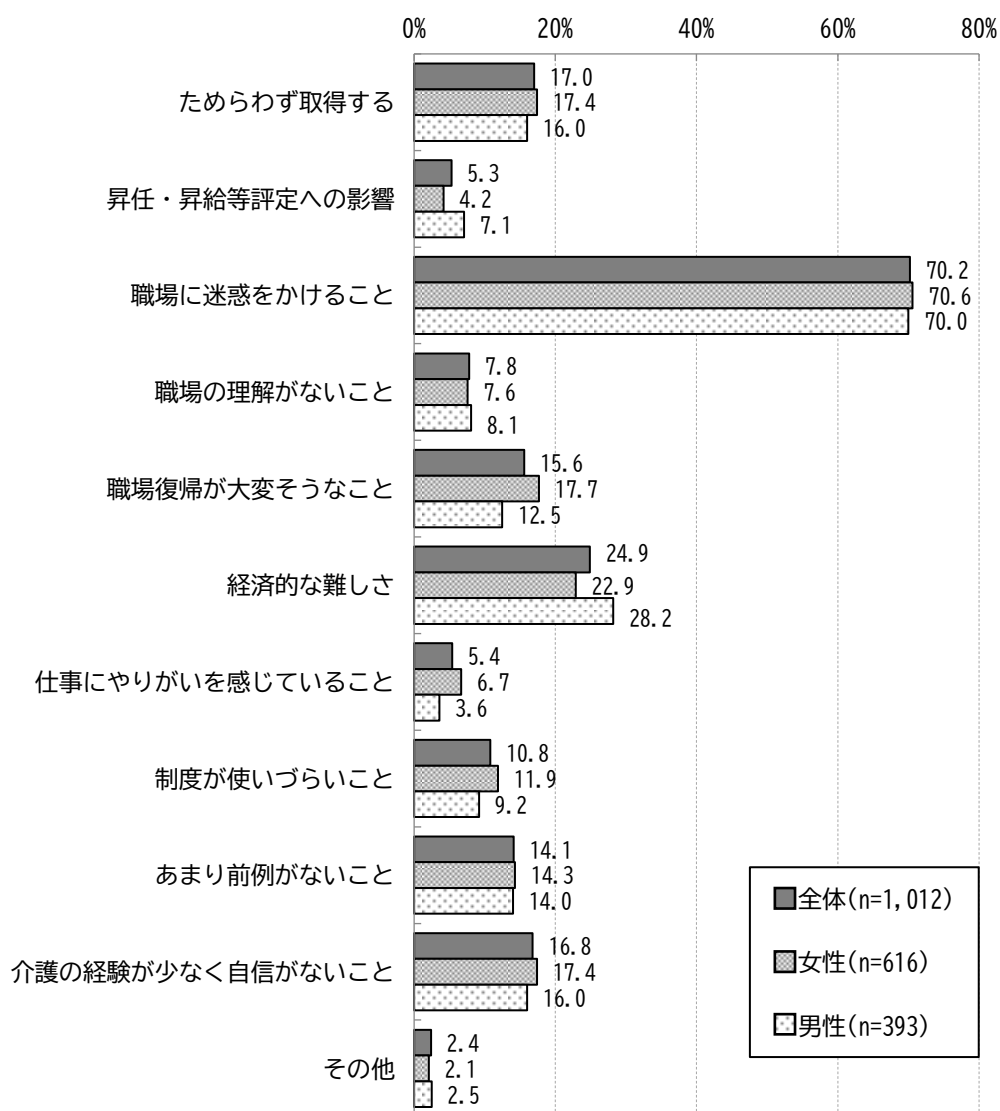
問 13 勤務1年以上で月13日以上勤務している方にお聞きます。今、あなたが介護休業を取るとしたら、どのようなことにためらいを感じますか。(〇はいくつでも)

【全体】

「職場に迷惑をかけること」が70.2%と最も多く、次いで「経済的な難しさ」が24.9%、「ためらわず取得する」が17.0%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「職場に迷惑をかけること」が最も多く、次いで「経済的な難しさ」となっている。



※勤続1年以上で月13日以上勤務している人のうち、問12、問13のいずれか一方にのみ回答した人がいたため、問12と問13で母数が異なります。

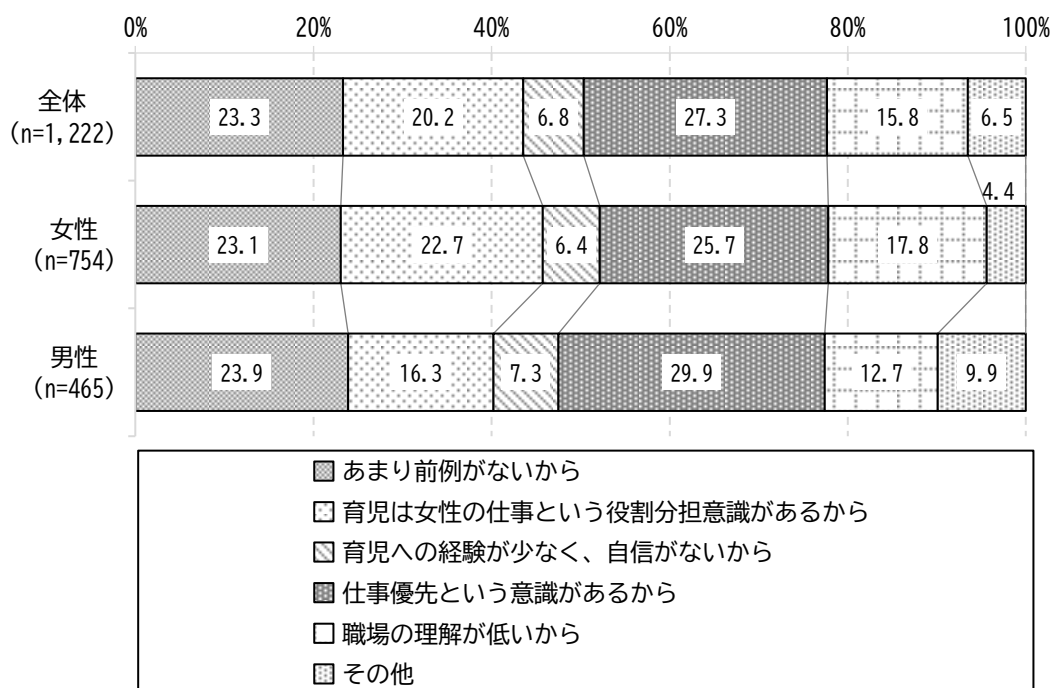
問 14 あなたは、育児休業が、男女職員を対象としているにもかかわらず、男性職員の取得率が低い最も大きな理由は何だと思いますか。(〇は1つ)

【全体】

「仕事優先という意識があるから」が27.3%と最も多く、次いで「あまり前例がないから」が23.3%、「育児は女性の仕事という役割分担意識があるから」が20.2%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「仕事優先という意識があるから」が最も多く、次いで「あまり前例がないから」となっており、性別による差はみられない。



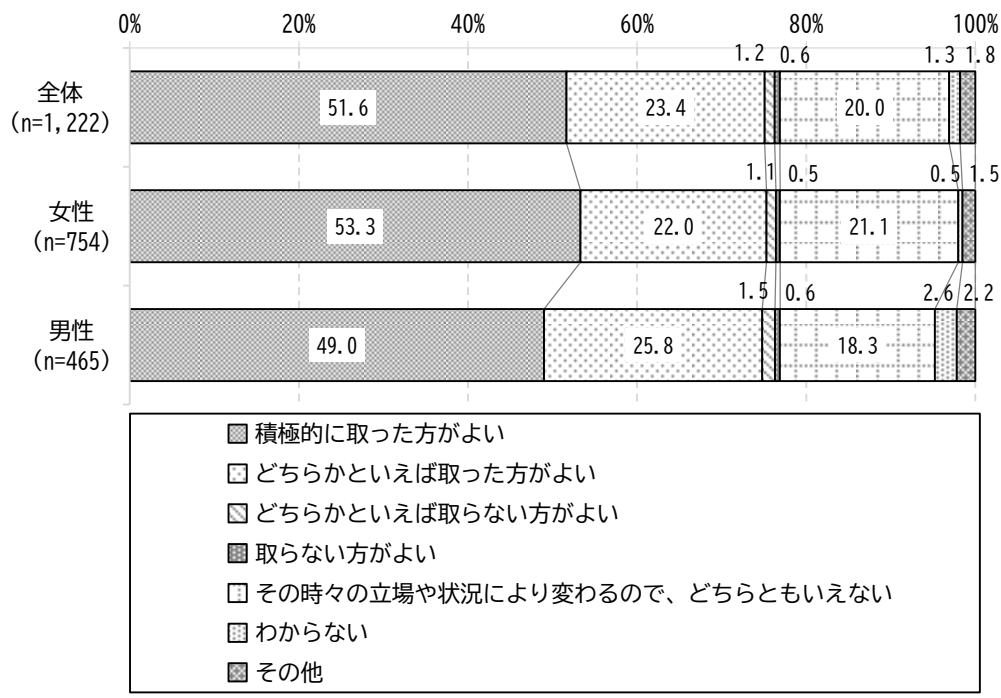
問 15 男性が育児休業や介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

【全体】

「積極的に取った方がよい」が51.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」が23.4%、「その時々々の立場や状況により変わるので、どちらともいえない」が20.0%となっている。

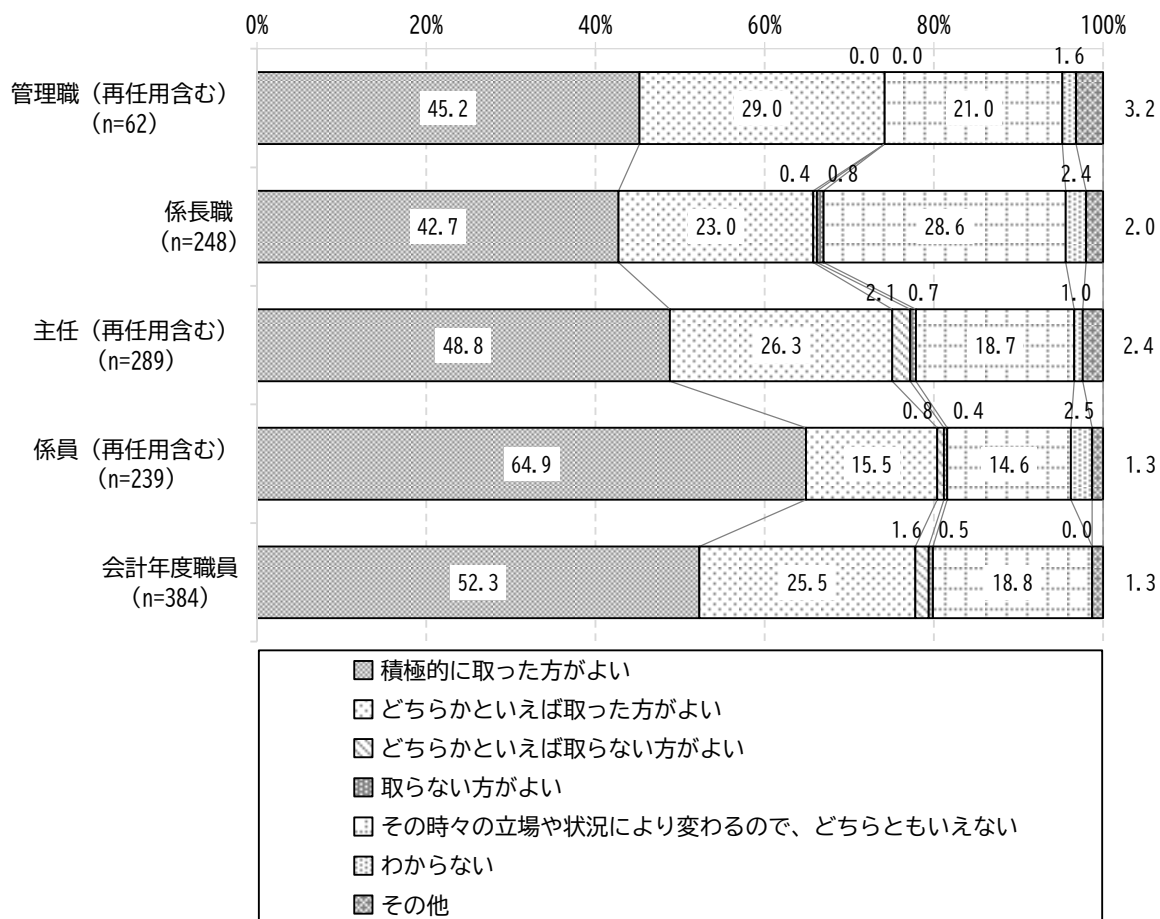
【性別】

女性・男性ともに「積極的に取った方がよい」が最も多く、次いで「どちらかといえば取った方がよい」となっており、性別による差はみられない。



### 【職層別】

いずれの職層においても「積極的に取った方がよい」が最も多くなっているが、管理職（再任用含む）が45.2%となっているのに対し、係員（再任用含む）は64.9%となっており、大きな差がみられる。



## 4 あらゆる分野における女性の活躍推進について

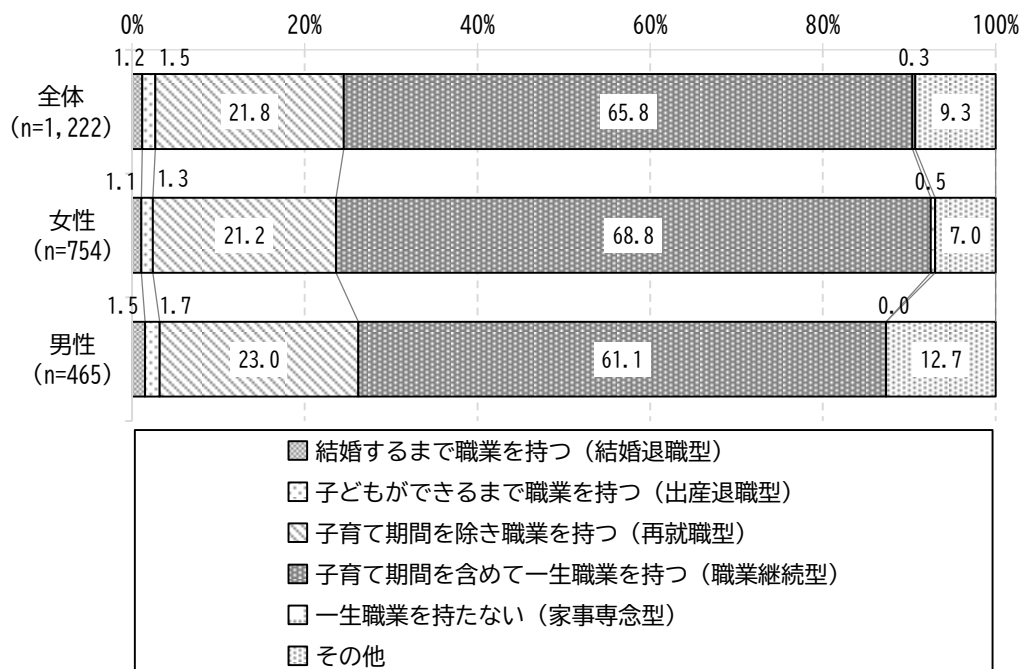
問 16 女性の一生と職業の関わり方で、あなたが最も望ましいと思われる形態はどれにあたりますか。  
(○は1つ)

### 【全体】

「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が 65.8%と最も多く、次いで「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」が 21.8%、「子どもができるまで職業を持つ（出産退職型）」が 1.5%となっている。

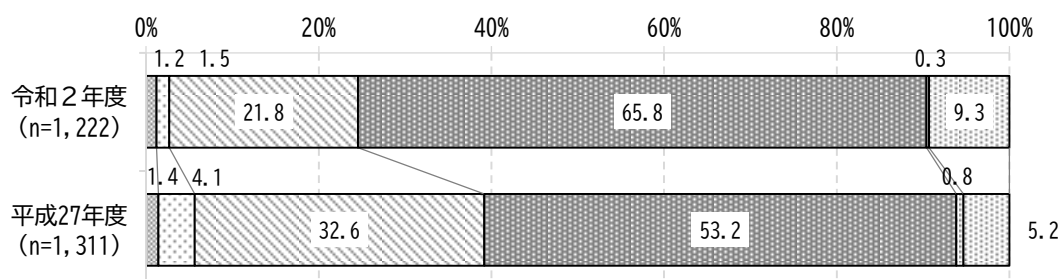
### 【性別】

女性・男性ともに「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」が最も多く、女性 68.8%、男性 61.1%で性別による差はみられない。



### 【平成 27 年度調査比較】

「子育て期間を除き職業を持つ（再就職型）」が平成 27 年度の 32.6%から 21.8%へ減少している。一方で、「子育て期間を含めて一生職業を持つ（職業継続型）」は、平成 27 年度の 53.2%から 65.8%へ増加している。



問 17 あなたが、女性の働き方について問 16 のように回答した理由は、なぜですか。(〇はいくつでも)

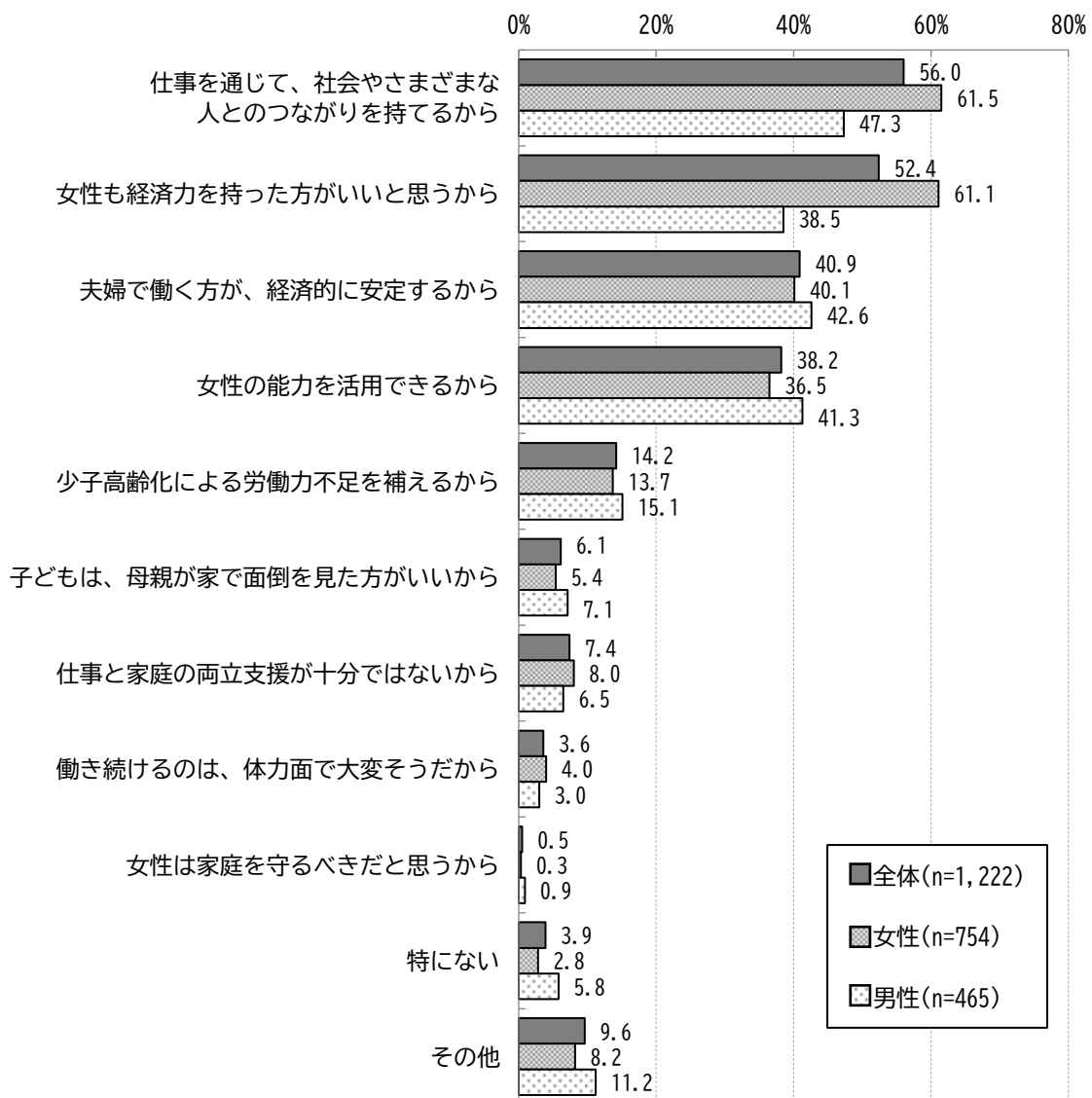
【全体】

「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が 56.0%と最も多く、次いで「女性も経済力を持った方がいいと思うから」が 52.4%、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」が 40.9%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が最も多く、次いで女性は「女性も経済力を持った方がいいと思うから」、男性は「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」となっている。

また、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」については、女性 61.1%、男性 38.5%となっており、性別による大きな差がみられる。そのほか、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」についても、女性 61.5%、男性 47.3%となっており、性別による差がみられる。



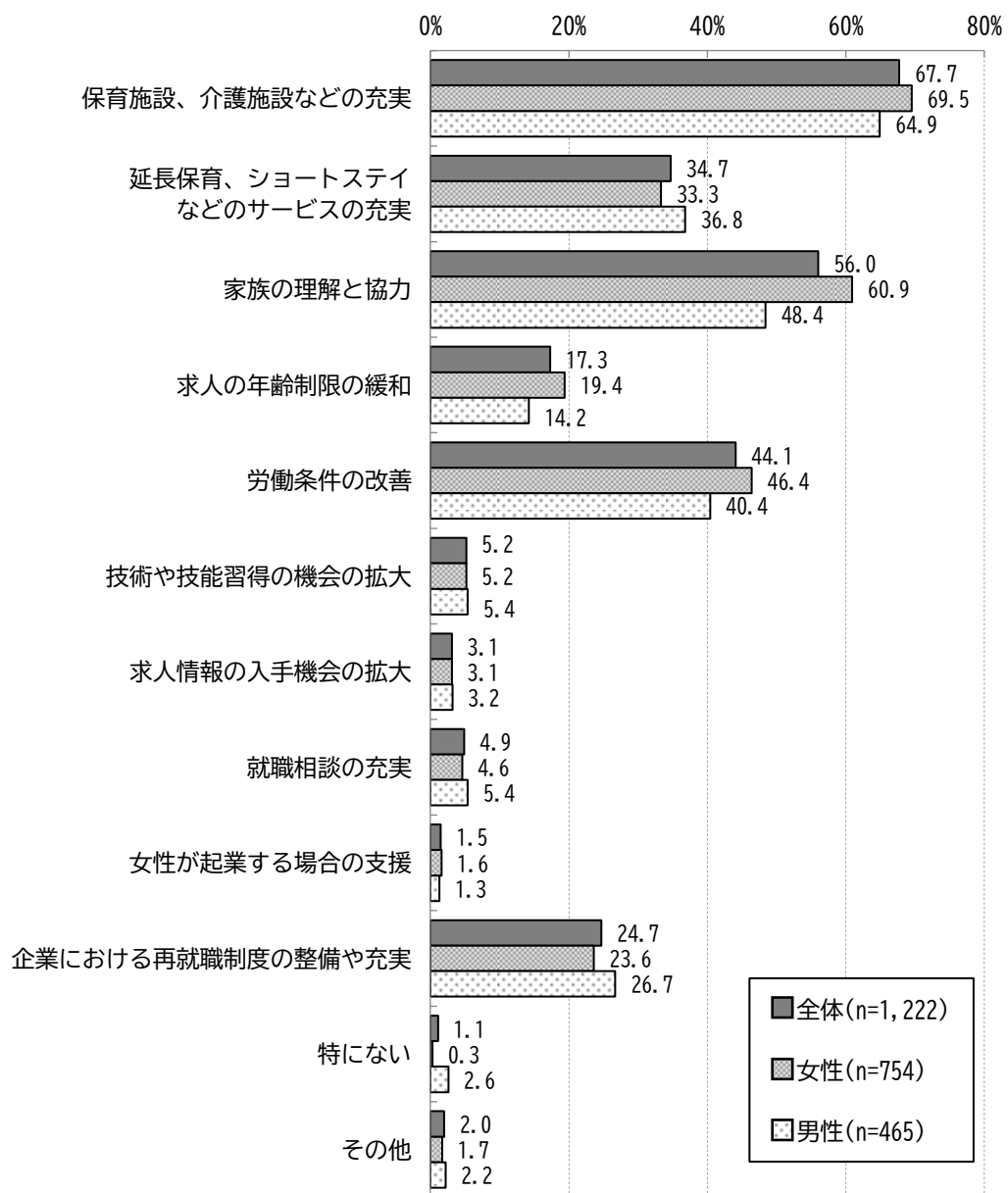
問 18 社会において、育児、介護などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

「保育施設、介護施設などの充実」が67.7%と最も多く、次いで「家族の理解と協力」が56.0%、「労働条件の改善」が44.1%となっている。

【性別】

女性・男性ともに「保育施設、介護施設などの充実」が最も多く、次いで「家族の理解と協力」、「労働条件の改善」となっている。また、「家族の理解と協力」については、女性60.9%、男性48.4%となっており、性別による差がみられる。





問 19 社会において、女性が職場で活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思いますか。  
(〇は3つまで)

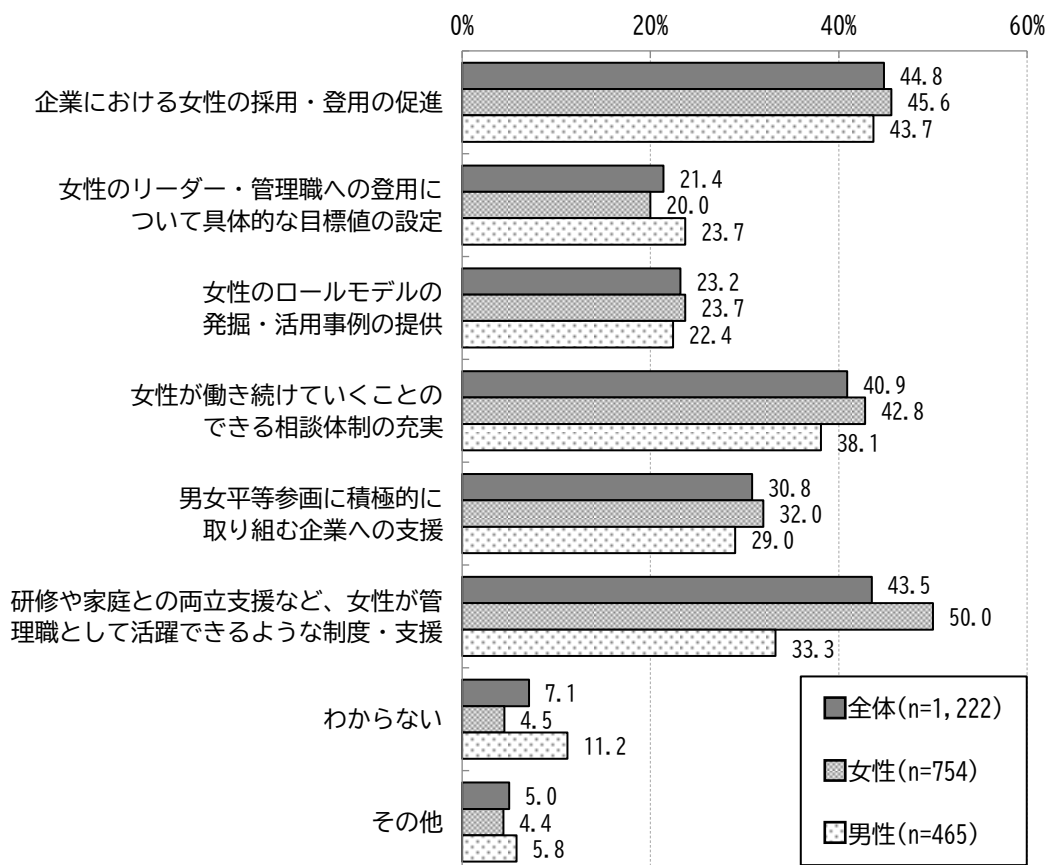
**【全体】**

「企業における女性の採用・登用の促進」が44.8%と最も多く、次いで「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」が43.5%、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」が40.9%となっている。

**【性別】**

女性は「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」が最も多く、次いで「企業における女性の採用・登用の促進」となっている。男性は「企業における女性の採用・登用の促進」が最も多く、次いで「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」となっている。

また、「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」については、女性50.0%、男性33.3%となっており、性別による差がみられる。



## 5 人権について

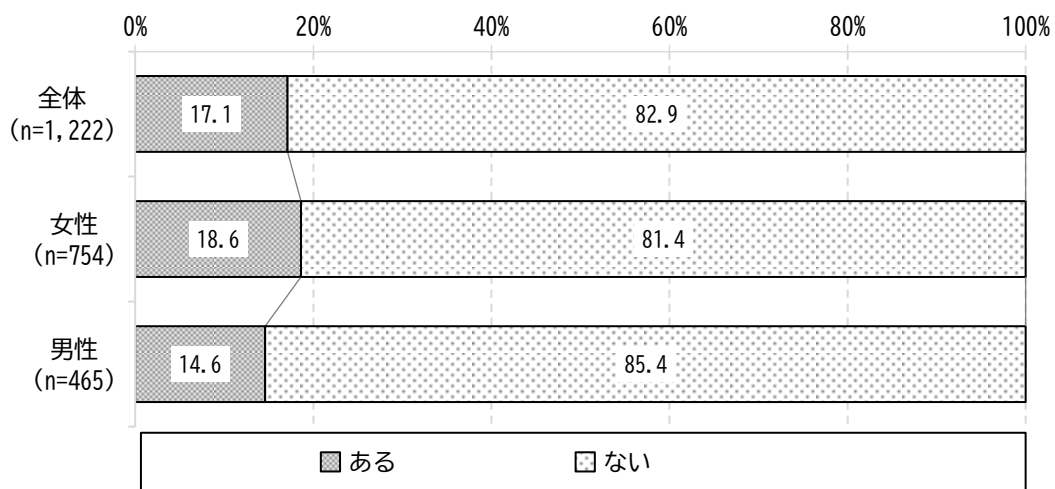
問 20 あなたの職場で過去5年間にセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を見たり聞いたりしたことはありますか。あるいは、職場で実際に体験したことがありますか。（○は1つ）

### 【全体】

「ない」が82.9%、「ある」が17.1%となっている。

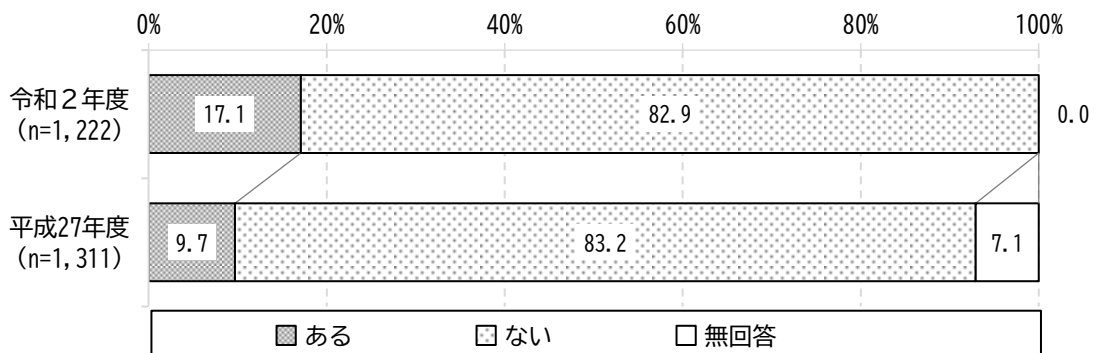
### 【性別】

女性は「ない」が81.4%、「ある」が18.6%となっている。また、男性は「ない」が85.4%、「ある」が14.6%となっている。



### 【平成 21 年度・27 年度調査比較】

「ある」は平成 27 年度から令和 2 年度にかけて、9.7%から 17.1%へ増加している。一方で、「ない」は平成 27 年度と概ね同程度となっている。



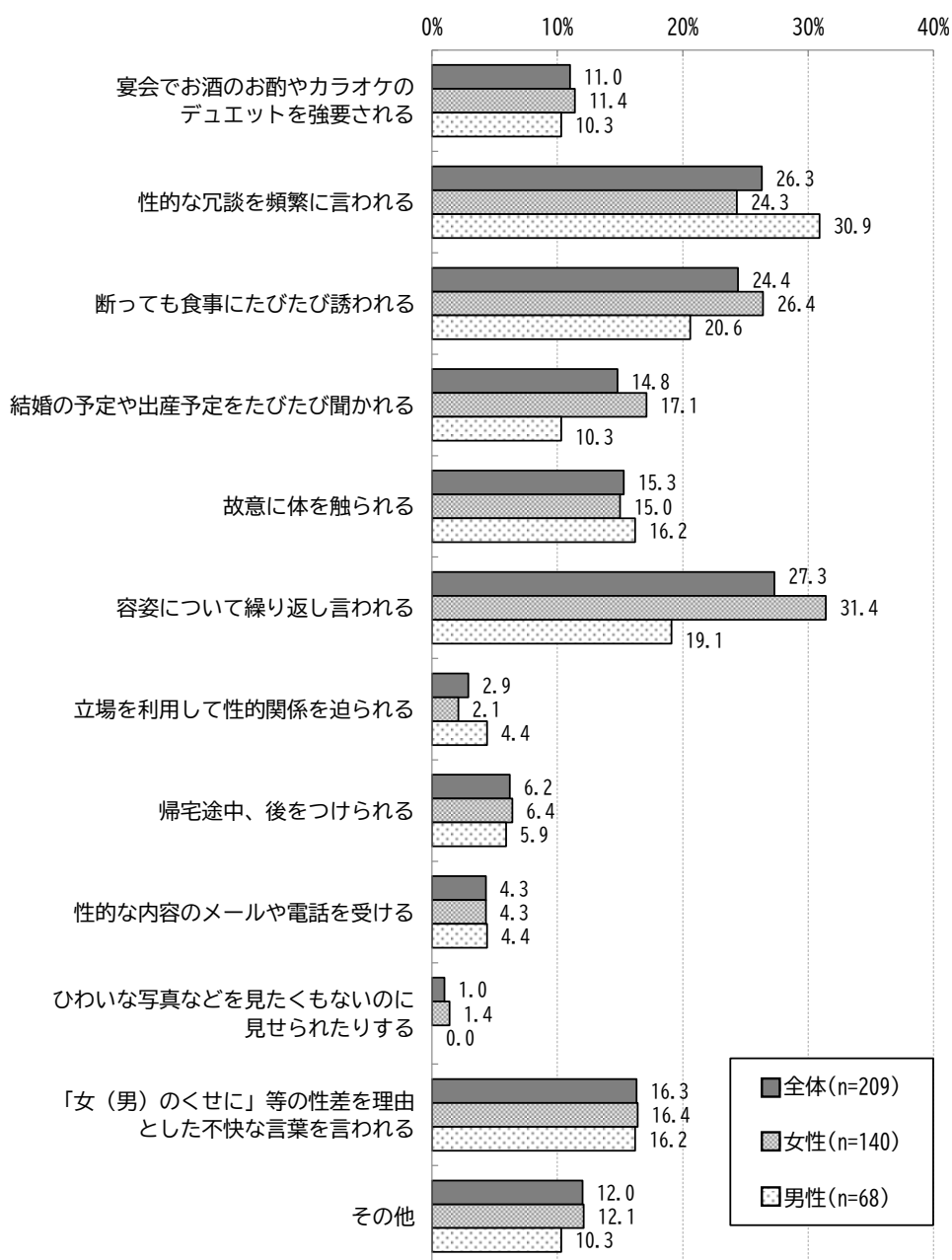
問 20-1 それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【全体】

「容姿について繰り返し言われる」が27.3%と最も多く、次いで「性的な冗談を頻繁に言われる」が26.3%、「断っても食事にたびたび誘われる」が24.4%となっている。

【性別】

女性は「容姿について繰り返し言われる」が最も多く、次いで「断っても食事にたびたび誘われる」となっている。男性は「性的な冗談を頻繁に言われる」が最も多く、次いで「断っても食事にたびたび誘われる」となっている。また、「容姿について繰り返し言われる」については、女性31.4%、男性19.1%となっており、性別による差がみられる。



問 21 社会的に配偶者（事実婚や離婚後も含む）への暴力（DV）が問題になっていますが、配偶者との間で次のようなことが行われた場合、あなたはそれを暴力だと思えますか。次の（１）～（１２）について、それぞれ選んでください。（○は１つずつ）

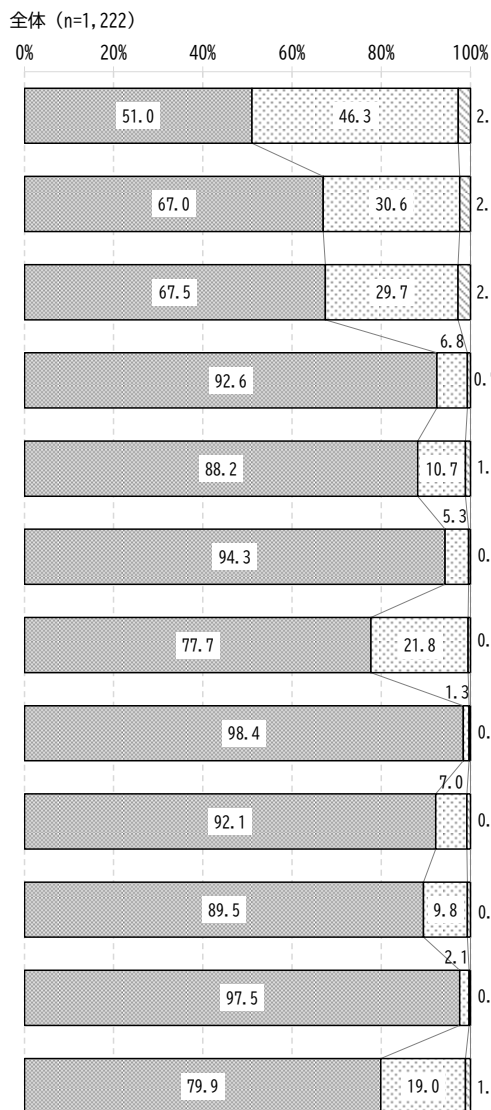
【全体】

「どんな場合でも暴力にあたると思う」で最も多いのが、「（８）なぐる蹴るの暴力をふるう」が98.4%、次いで「（11）おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する」が97.5%、「（６）なぐるふりをして、おどす」が94.3%となっている。一方、「暴力の場合も、そうでない場合もあると思う」で最も多いのが、「（１）何を言っても無視する」が46.3%、次いで「（２）交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する」が30.6%、「（３）自分が家にいるときは外出しないようにと言う」が29.7%となっている。

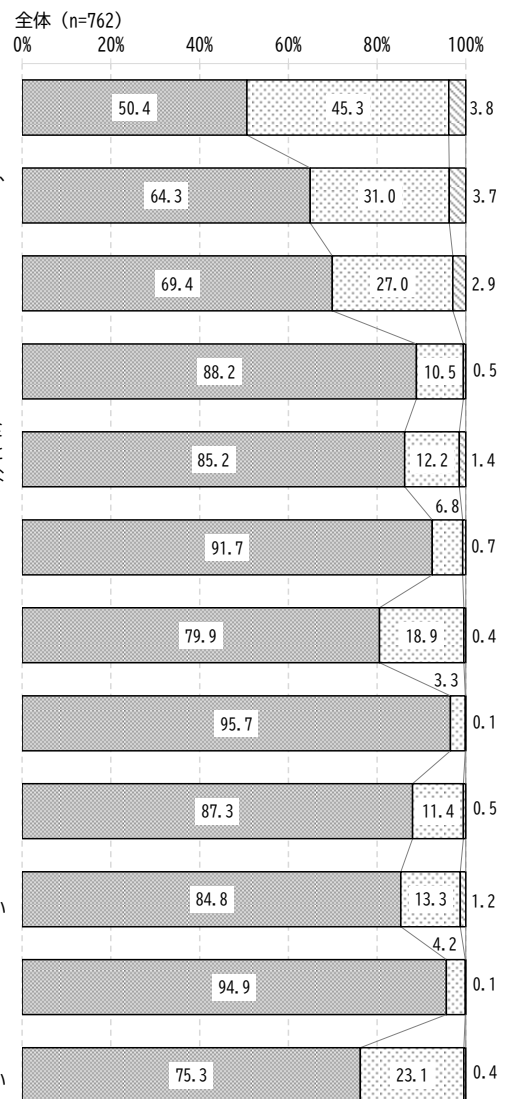
【平成 27 年度調査比較】

いずれの項目も平成 27 年度と同様の傾向を示しており、大きな変化はみられない。

《令和 2 年度職員意識調査》



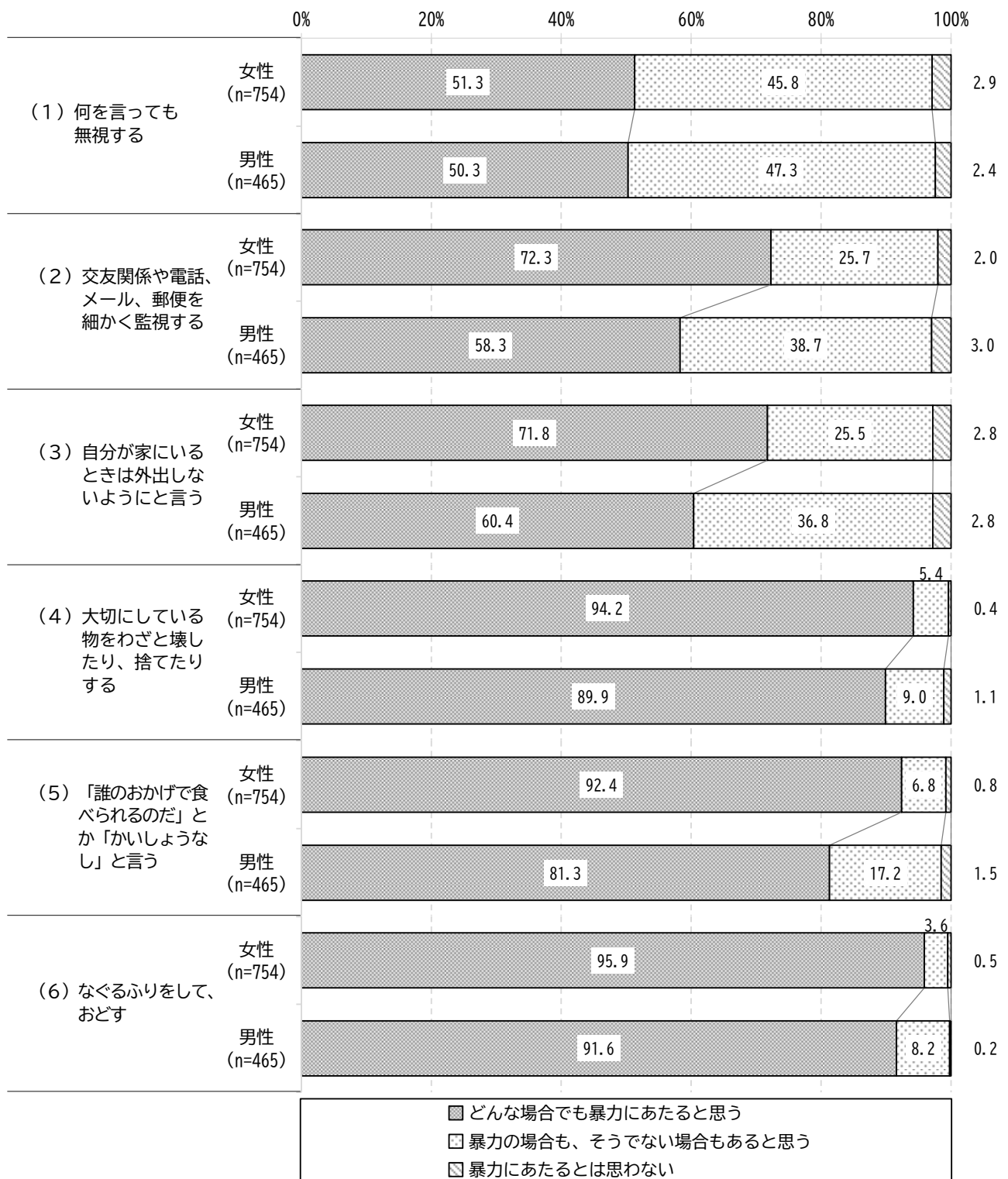
《平成 27 年度職員意識調査》

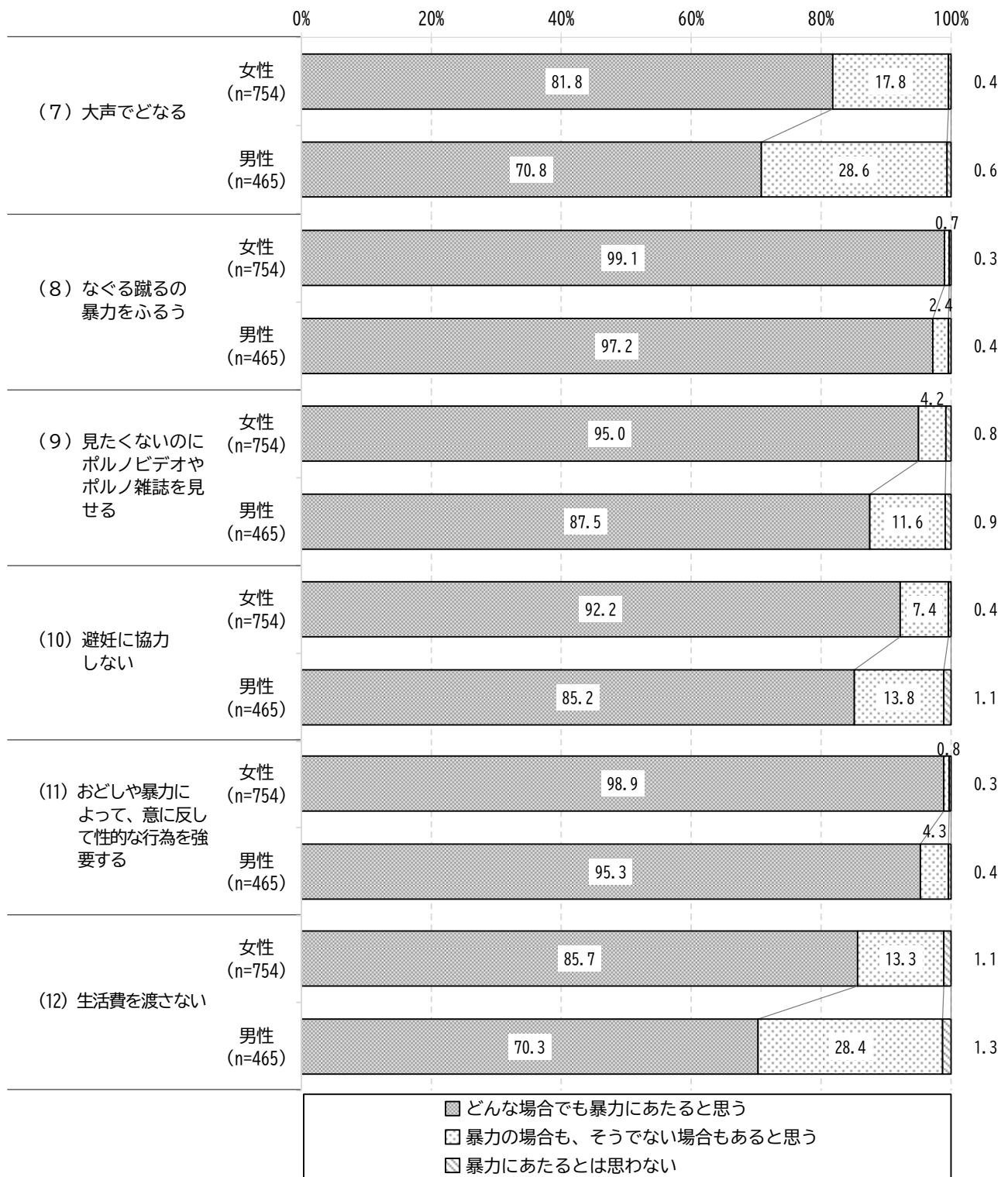


「どんな場合でも暴力にあたると思う」  
 「暴力の場合も、そうでない場合もあると思う」  
 「暴力にあたるとは思わない」

## 【性別】

いずれの項目においても、男性よりも女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっており、特に「(12) 生活費を渡さない」については、女性 85.7%、男性 70.3%となっており、性別による差がみられる。



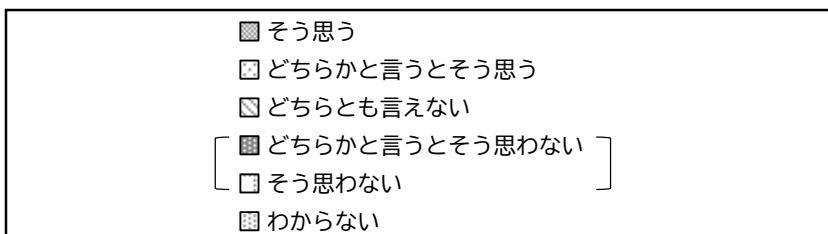
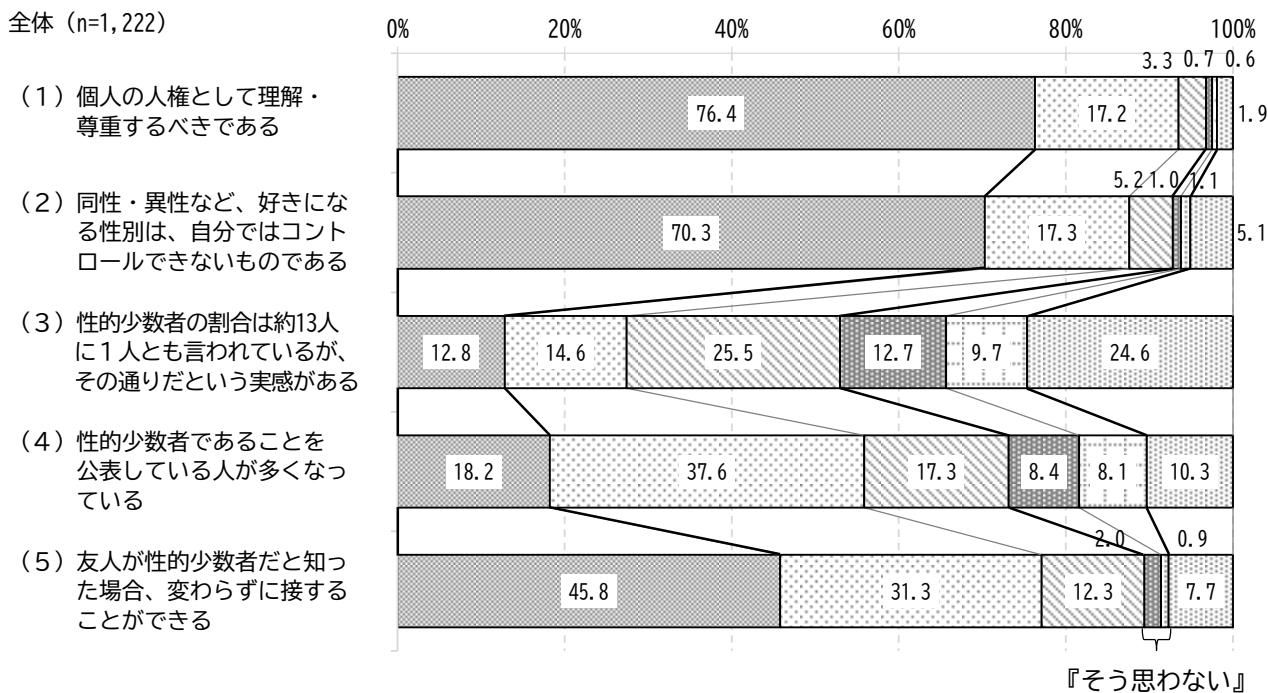


## 6 多様な性自認・性的指向の人々について

問 22 多様な性自認・性的指向の人々（以下、「性的少数者」とする）について、どのように思いますか。次の（１）～（５）について、それぞれ選んでください。（○は１つずつ）

### 【全体】

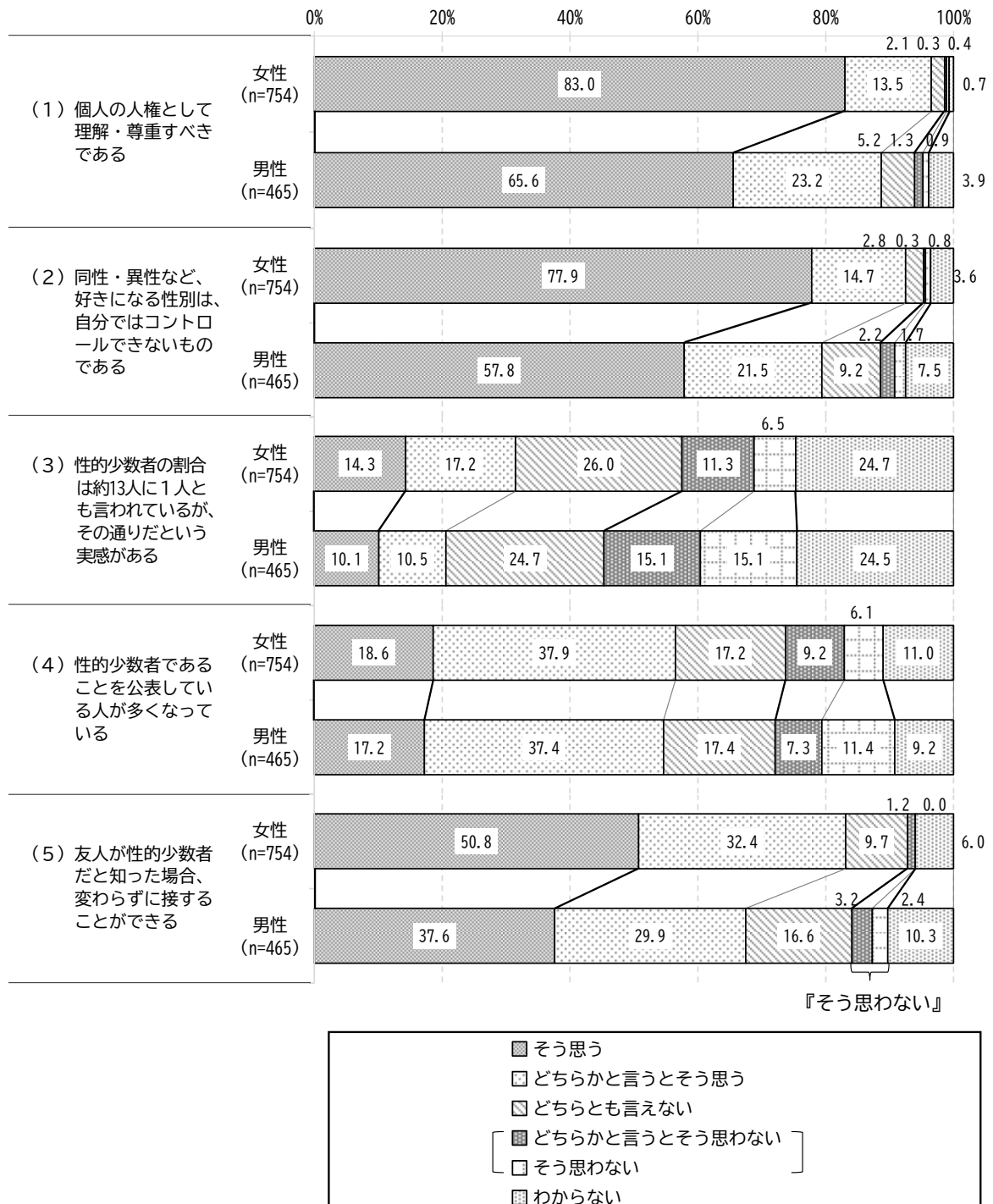
「そう思う」が最も多いのが、「（１）個人の人権として理解・尊重すべきである」で76.4%、次いで「（２）同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」が70.3%、「（５）友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」が45.8%となっている。『そう思わない』（「どちらかと言うとそう思わない」と「そう思わない」の合計）が最も多いのが、「（３）性的少数者の割合は約13人に1人とも言われているが、その通りだという実感がある」で22.4%、次いで「（４）性的少数者であることを公表している人が多くなっている」が16.5%となっている。



## 【性別】

「そう思う」の回答は、女性・男性ともに「(1) 個人の人権として理解・尊重すべきである」が最も多く、次いで「(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」となっている。また、いずれの項目も女性の認知度が高くなっているが、特に「(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」の「そう思う」については、女性 77.9%、男性 57.8%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「(1) 個人の人権として理解・尊重すべきである」、「(5) 友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」についても性別による差がみられる。

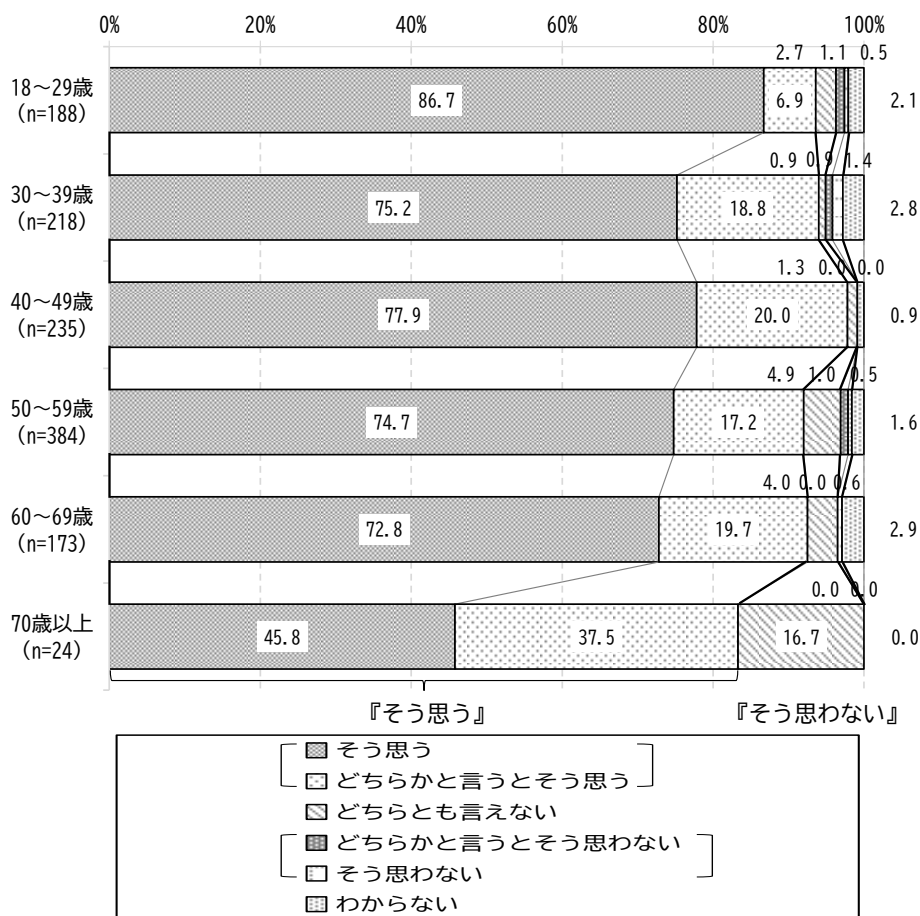




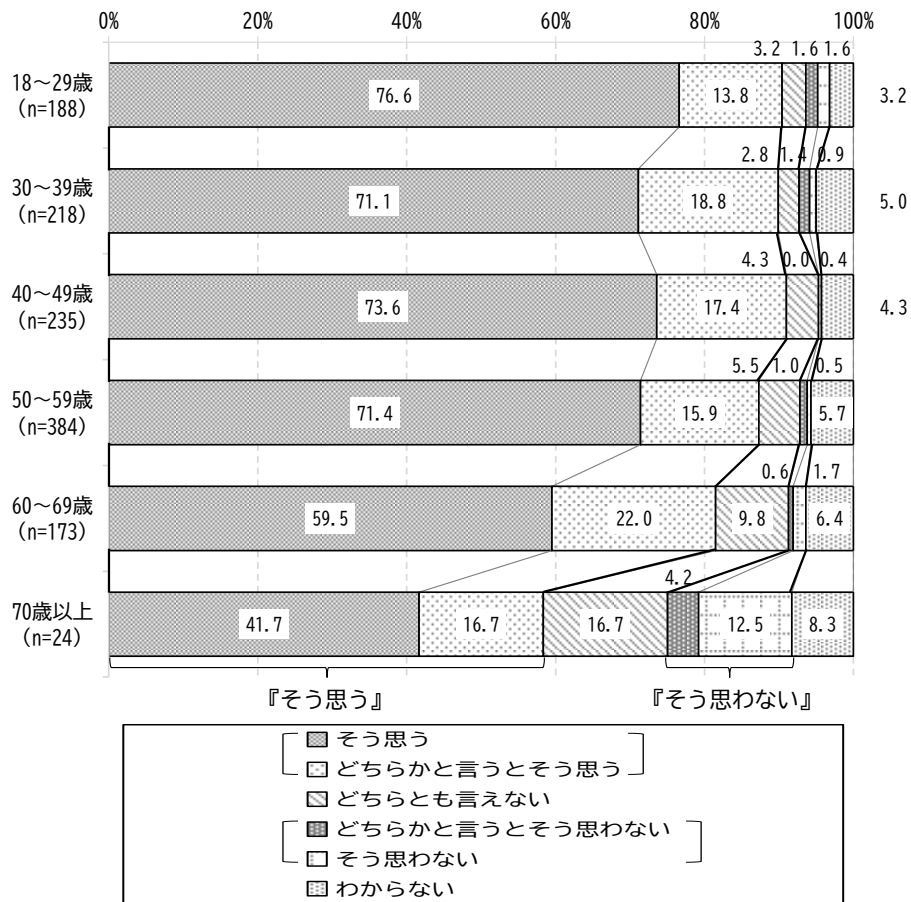
## 【年齢別】

いずれの年齢層においても、「(1) 個人の人権として理解・尊重すべきである」「(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである」「(5) 友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる」で、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計)が半数以上となっているが、「(3) 性的少数者の割合は約13人に1人とも言われているが、その通りだという実感がある」では『そう思う』は半数以下となっており、「どちらとも言えない」や「わからない」が多くなっている。

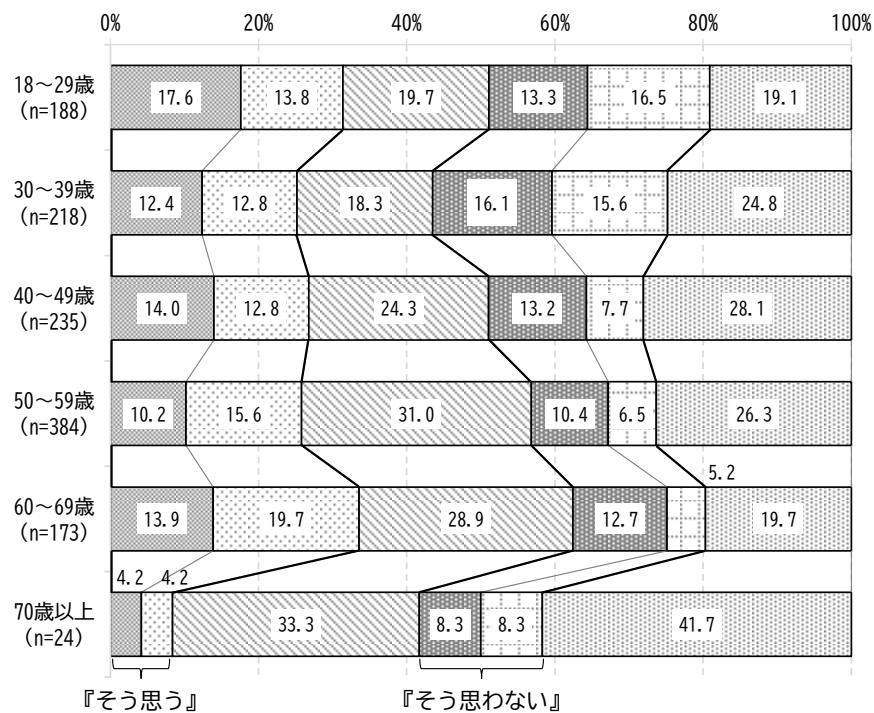
### (1) 個人の人権として理解・尊重すべきである



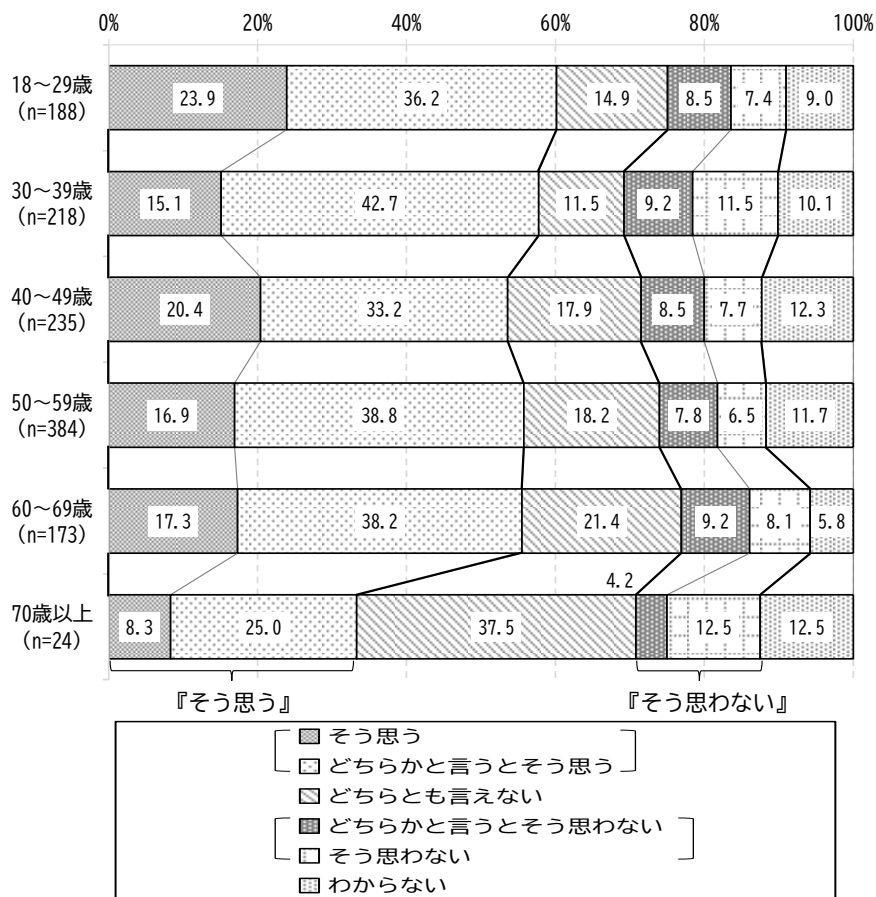
(2) 同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである



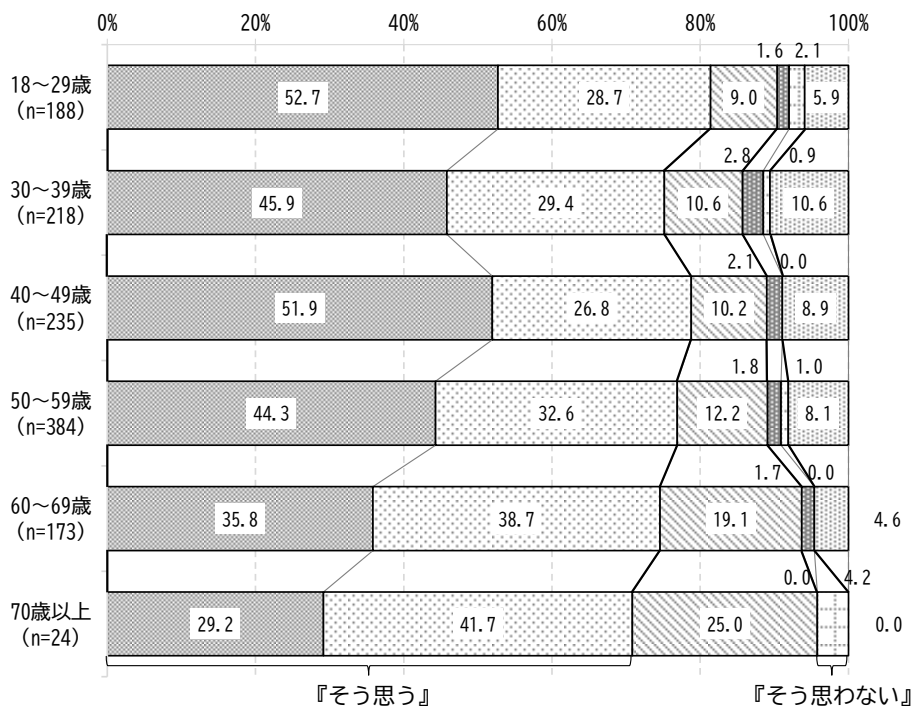
(3) 性的少数者の割合は約13人に1人とも言われているが、その通りだという実感がある



(4) 性的少数者であることを公表している人が多くなっている



(5) 友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる



問 23 性的少数者は日常生活で、下記のようなことに困っているとされています。次のうち、あなたが知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

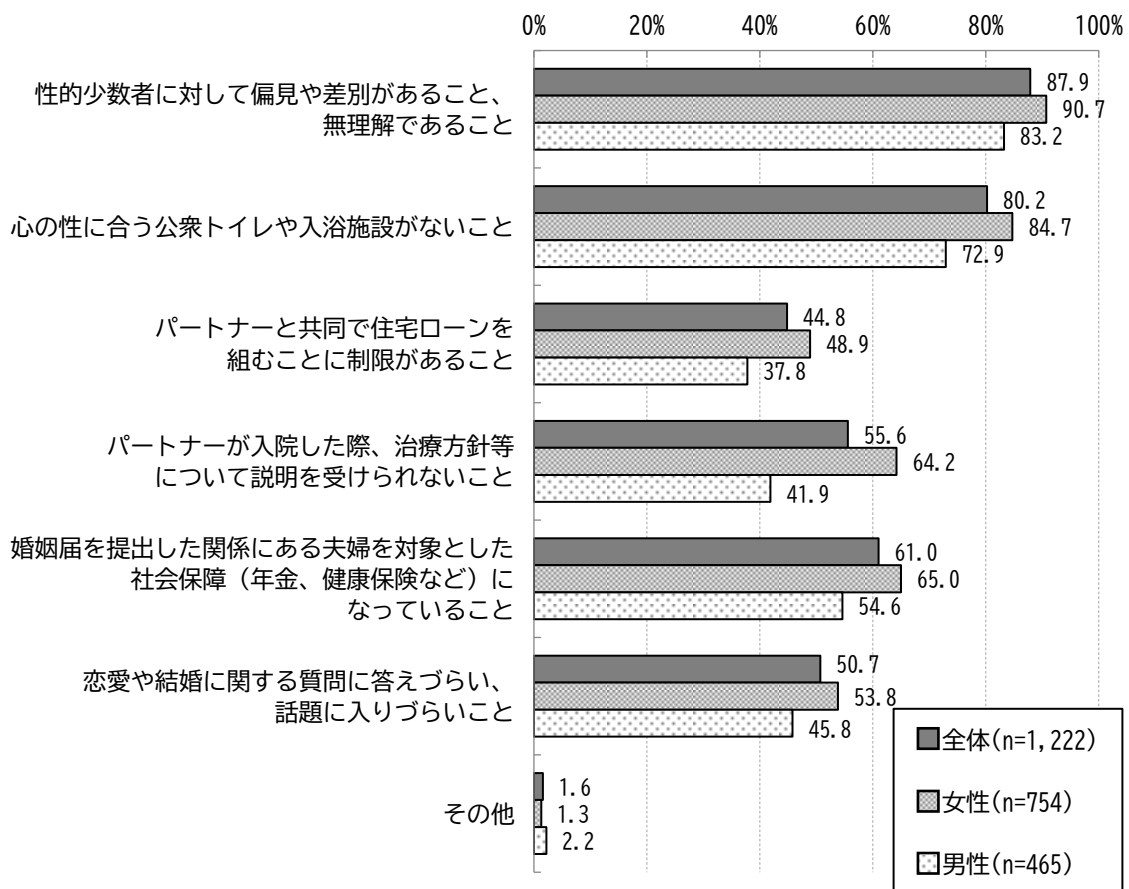
【全体】

「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」が87.9%と最も多く、次いで「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」が80.2%、「婚姻届を提出した関係にある夫婦を対象とした社会保障（年金、健康保険など）になっていること」が61.0%となっている。一方、「パートナーと共同で住宅ローンを組むことに制限があること」の回答は半数未満であった。

【性別】

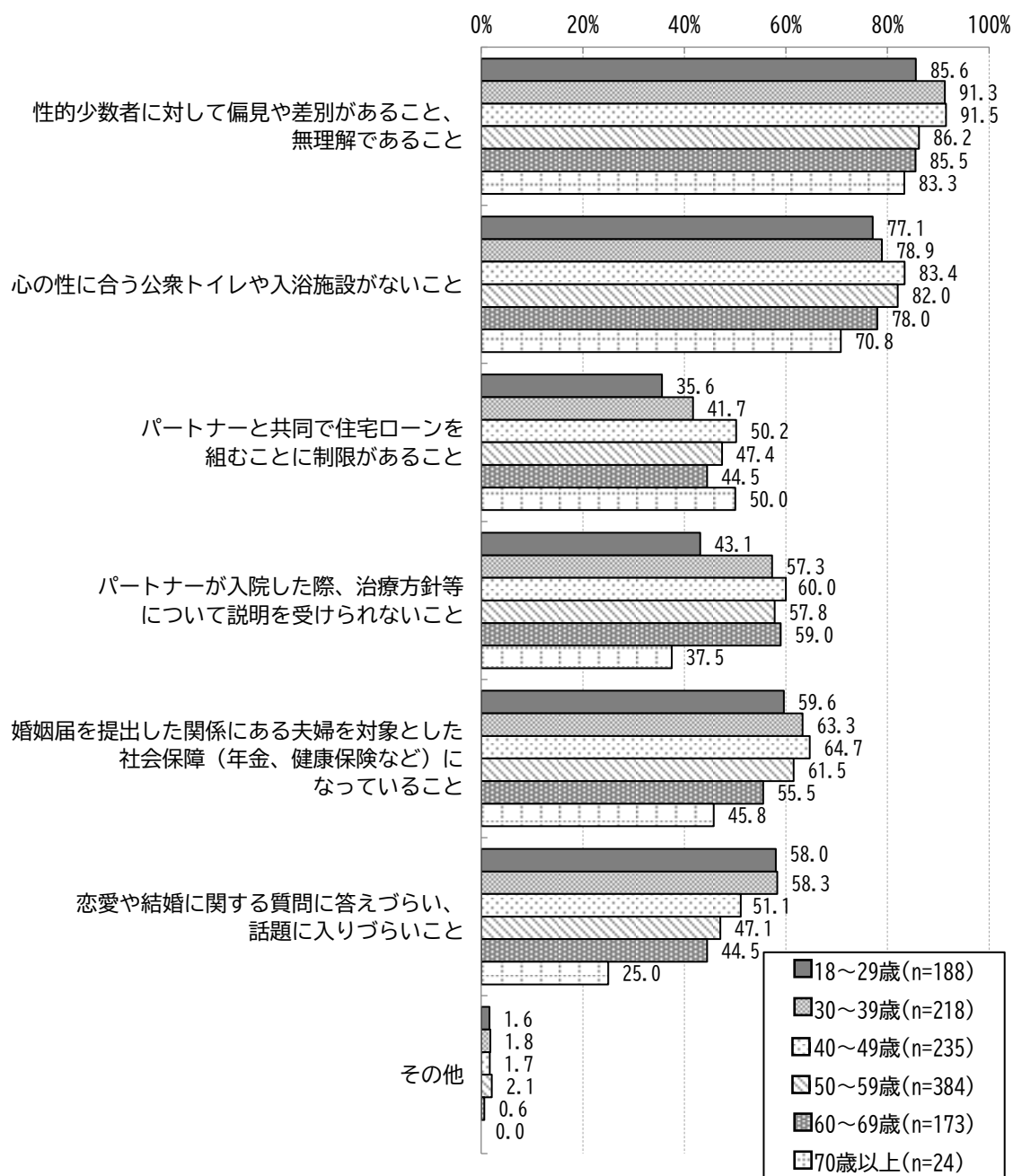
女性・男性ともに「性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること」が最も多く、次いで「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」となっている。また、いずれの項目も女性の認知度が高くなっているが、特に「パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと」については、女性64.2%、男性41.9%となっており、性別による大きな差がみられる。

そのほか、「心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと」、「パートナーと共同で住宅ローンを組むことに制限があること」、「婚姻届を提出した関係にある夫婦を対象とした社会保障（年金、健康保険など）になっていること」についても、性別による差がみられる。

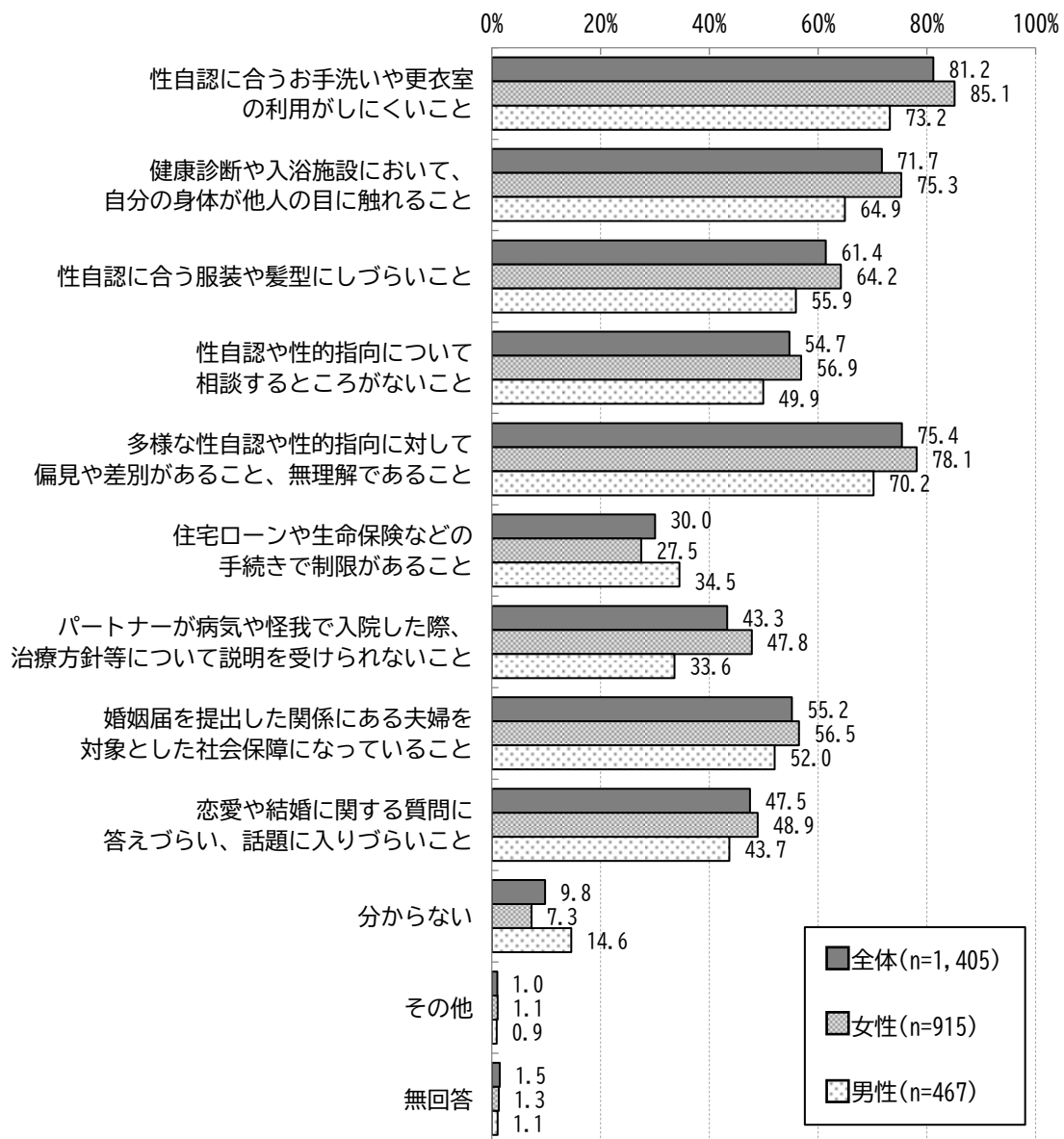


## 【年齢別】

「恋愛や結婚に関する質問に答えづらい、話題に入りづらいこと」以外の全ての項目で、「40～49歳」の認知度が高くなっている。また、「恋愛や結婚に関する質問に答えづらい、話題に入りづらいこと」では、「18～29歳」、「30～39歳」の若い年齢層で認知度が高くなっている。



【平成 29 年度調査比較（参考）】



※平成 29 年 10 月実施「豊島区職員の多様な性自認・性的指向に関する意識・実態調査報告書」より

## 7 国・区の政策や施策について

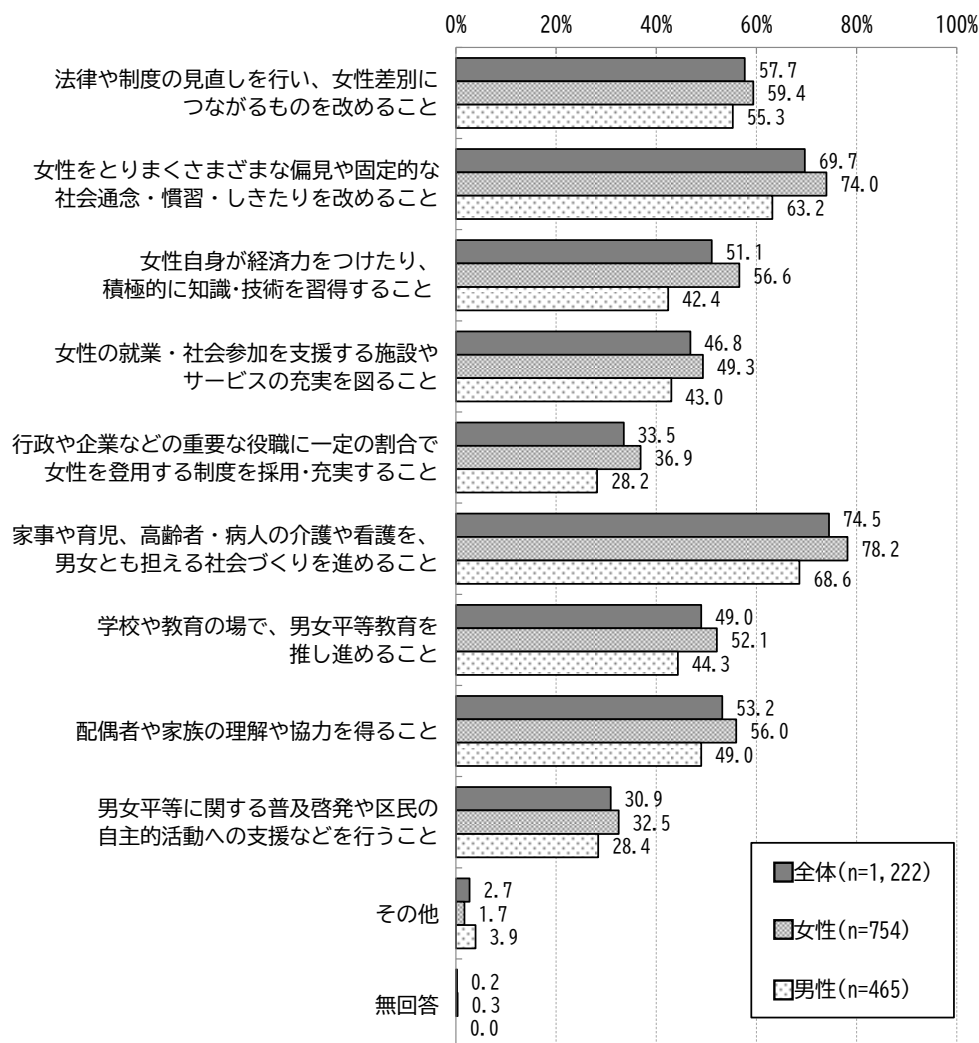
問 24 男女共同参画社会を実現するために、あなたは、どのようなことが大切だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

### 【全体】

「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること」が74.5%と最も多く、次いで「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」が69.7%、「法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が57.7%となっている。

### 【性別】

女性・男性ともに「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女ともに担える社会づくりを進めること」が最も多く、次いで「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」となっている。また、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術を習得すること」については、女性56.6%、男性42.4%となっており、性別による差がみられる。そのほか、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること」、「家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女ともに担える社会づくりを進めること」についても、性別による差がみられる。



## 第4章 調査票

あなたご自身やご家族のことについてお聞きします

F 1 あなたが自認する性別を選んでください。(〇は1つ)

1 女性	61.7%	3 1, 2にあてはまらない	0.2%
2 男性	38.1%	無回答	0.0%

F 2 あなたの年齢は、どの区分になりますか。(〇は1つ)

1 ~29歳	15.4%	3 40~49歳	19.2%	5 60~69歳	14.2%
2 30~39歳	17.8%	4 50~59歳	31.4%	6 70歳以上	2.0%
				無回答	0.0%

F 3 あなたの職層はどれですか。(〇は1つ)

1 管理職(再任用含む)	5.1%	3 主任(再任用含む)	23.6%	5 会計年度任用職員	31.4%
2 係長職	20.3%	4 係員(再任用含む)	19.6%	無回答	0.0%

F 4 あなたの職種はどれですか。(〇は1つ)

1 事務系(一般事務、社会教育)	58.9%
2 福祉系(福祉、保育士、児童指導、心理)	24.6%
3 その他	16.4%
無回答	0.0%

F 5 あなたは現在、結婚していますか。(〇は1つ)

1 結婚している(事実婚含む)	66.6%	2 結婚していない	33.4%
無回答	0.0%		

F 6 あなたの世帯構成は、どれですか。(〇は1つ)

1 単身世帯(ひとり暮らし)	19.6%	4 三世帯世帯(親と子と孫)	4.3%
2 一世代世帯(夫婦のみ)	21.3%	5 その他の世帯	1.6%
3 二世帯世帯(親と子)	53.1%	無回答	0.0%

F 7 あなたに同居のお子さんはいらっしゃいますか。また、一番下のお子さんは次のどれに当たりますか。(〇は1つ)

1 乳幼児	11.3%	4 中学生	4.0%	6 社会人	15.6%
2 小学生(3年生以下)	4.0%	5 高校生以上	13.6%	7 子どもはいない	48.1%
3 小学生(4年生以上)	3.4%			無回答	0.0%



男女平等意識についてお聞きします

問1 あなたは、今の社会は男女平等になっていると思いますか。(〇は1つ)

1 男女平等になっている	3.8%
2 どちらかといえば、男女平等になっている	32.8%
3 どちらかといえば、男女平等になっていない	36.1%
4 男女平等になっていない	22.3%
5 わからない	4.9%
無回答	0.0%

問2 次の(1)～(7)の分野では、男女平等がどの程度実現されていると思いますか。それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	男女平等になっている	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
(1)家庭の中で	7.2%	44.2%	29.1%	6.8%	1.2%	11.5%	0.0%
(2)職場の中で	3.7%	27.5%	45.3%	11.0%	1.2%	11.4%	0.0%
(3)学校教育の場で	1.8%	15.1%	47.2%	2.7%	0.3%	32.9%	0.0%
(4)政治の場で	42.5%	39.3%	6.5%	1.8%	0.3%	9.7%	0.0%
(5)制度や法律の上で	10.1%	36.2%	27.8%	7.8%	0.7%	17.4%	0.0%
(6)社会通念・慣習・しきたりで	21.7%	59.0%	7.0%	3.4%	0.7%	8.3%	0.0%
(7)地域活動の場で	8.8%	38.1%	21.9%	6.1%	0.7%	24.5%	0.0%

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1 そのとおりだと思う	0.8%	4	どちらかといえばそう思わない	22.7%
2 どちらかといえばそう思う	6.5%	5	まったくそう思わない	42.6%
3 どちらともいえない	27.3%		無回答	0.0%

問4 「子育ては母親の役割」、「家事は女性の役割」、「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
(1) 「子育ては母親の役割」という考え方	1.5%	21.0%	26.4%	51.1%	0.0%
(2) 「家事は女性の役割」という考え方	0.9%	13.7%	26.2%	59.2%	0.0%
(3) 「家庭での介護や看護は女性の役割」という考え方	0.5%	9.6%	25.9%	64.0%	0.0%

家庭生活についてお聞きします

問5 既婚（事実婚を含む）の方にお聞きします。あなたの家庭では家事、育児などの分担はどのようにしていますか。(1)～(11)について、それぞれ選んでください。(〇は1つずつ)

	夫の担当	夫の担当 どちらかといえば	夫と妻と同程度	妻の担当 どちらかといえば	妻の担当	その他 どちらでもない、	無回答
(1) 家庭の重大問題の決定	4.3%	21.6%	58.4%	7.4%	2.7%	5.0%	0.6%
(2) 家計の管理	6.1%	11.1%	33.2%	20.9%	21.5%	6.6%	0.6%
(3) 食事の支度	2.3%	7.4%	17.4%	33.4%	35.1%	3.6%	0.7%
(4) 食事の後片付け	9.7%	17.4%	27.6%	22.7%	17.2%	4.3%	1.0%
(5) 掃除	4.5%	12.9%	32.1%	27.0%	18.4%	3.9%	1.1%
(6) 洗濯	6.3%	10.7%	28.0%	23.2%	27.3%	3.4%	1.1%
(7) 買い物	2.5%	8.5%	39.6%	27.6%	16.3%	4.4%	1.1%
(8) ゴミ出し	26.2%	20.3%	22.2%	13.9%	11.5%	4.5%	1.4%
(9) 子育て	0.0%	1.1%	34.6%	33.2%	7.7%	21.7%	1.6%
(10) 家族の介護や看護	0.5%	2.5%	29.6%	20.1%	9.1%	37.0%	1.2%
(11) 町会・自治会等地域でのつきあい	9.1%	15.2%	20.9%	15.5%	10.2%	28.1%	1.0%

職業についてお聞きします

問6 あなたが現在働いている理由は何ですか。(〇は3つまで)

1	職業を持つのがあたり前だから	29.5%	7	生計を維持するため	70.9%
2	仕事が生きがいだから	6.9%	8	家計を補助するため	15.5%
3	社会とのつながりがほしいから	30.0%	9	家庭に縛られたくないから	6.2%
4	能力や個性を生かしたいから	16.7%	10	なんとなく	3.7%
5	仕事を通じて自分を成長させたいから	25.0%	11	その他	1.6%
6	社会に役立ちたいから	25.0%		無回答	0.1%

問7 あなたは「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」について、どのような状態が理想だと思いますか。また、現実はどうですか。(〇は1つずつ)

(1) 理想

1	「仕事」を優先	0.7%
2	「家庭」を優先	13.8%
3	「地域・個人の生活」を優先	4.0%
4	「仕事」と「家庭」を両立	24.8%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立	4.2%
6	「家庭」と「地域・個人の生活」を両立	5.2%
7	「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立	46.2%
8	その他	1.1%
	無回答	0.0%

(2) 現実

1	「仕事」を優先	38.9%
2	「家庭」を優先	8.3%
3	「地域・個人の生活」を優先	2.0%
4	「仕事」と「家庭」を両立	33.6%
5	「仕事」と「地域・個人の生活」を両立	3.8%
6	「家庭」と「地域・個人の生活」を両立	1.6%
7	「仕事」「家庭」「地域・個人の生活」を両立	10.0%
8	その他	2.0%
	無回答	0.0%

問8 管理職、再任用、会計年度任用職員“以外”の方にお聞きします。あなたが定年まで勤めるとして、どこまでチャレンジしますか。(〇は1つ)

1 課長以上になりたい	12.2%
2 係長にはなりたい	20.7%
3 主任主事にはなりたい	15.5%
4 特にチャレンジしたいと思わない	36.9%
5 受験資格ができたときに考える	14.7%
無回答	0.0%

問8-1は問8で「2 係長にはなりたい」または「3 主任主事にはなりたい」または「4 特にチャレンジしたいと思わない」と回答した方にお聞きします。

問8-1 管理職になりたいと思わない理由は何ですか。(〇は1つ)

1 管理職は責任が重いから	22.1%	5 試験が大変だから	2.2%
2 管理職になると休暇が取り難いから	6.8%	6 家庭生活と両立しないから	21.1%
3 管理職になると人事管理がわずらわしいから	2.9%	7 能力がないから	26.2%
4 現場で働きたいから	12.3%	8 その他	6.3%
		無回答	0.0%

問9 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、男女の扱いに差はありますか。(〇は1つ)

1 あると思う	19.3%	2 ないと思う	80.7%	無回答	0.0%
---------	-------	---------	-------	-----	------

問9-1は問9で「1 あると思う」と回答した方にお聞きします。

問9-1 それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 系の中心的仕事は男性が担っている	28.4%	5 女性はベテランでもお茶汲みから離れられない	4.7%
2 昇任昇給の早さが男女で違う	20.8%	6 女性は能力発揮の機会が少ない	14.0%
3 母性保護休暇をとる女性への評価が低い	16.5%	7 その他	33.5%
4 女性は補助的の仕事が多い	14.8%	無回答	0.0%

問10 あなたが職場の女性に期待することは主にどんなことですか。(〇は3つまで)

1 仕事への意欲	36.3%	7 折衝・交渉力	8.2%
2 責任感	42.2%	8 リーダーシップ	8.9%
3 気配り・人当たりのよさ	34.8%	9 判断力	17.6%
4 協調性	42.6%	10 実行力	19.5%
5 専門知識	15.4%	11 勤勉性	7.0%
6 視野の広さ	25.7%	12 その他	7.4%
		無回答	0.0%

問 11 あなたが職場の男性に期待することは主にどんなことですか。(〇は3つまで)

1	仕事への意欲	38.8%	7	折衝・交渉力	10.6%
2	責任感	51.4%	8	リーダーシップ	15.9%
3	気配り・人当たりのよさ	22.0%	9	判断力	21.9%
4	協調性	35.3%	10	実行力	25.9%
5	専門知識	13.3%	11	勤勉性	6.1%
6	視野の広さ	18.2%	12	その他	7.3%
				無回答	0.0%

問 12 勤続1年以上で月13日以上勤務している方にお聞きします。今、あなたが育児休業を取るとしたら、どのようなことにためらいを感じますか。(2~11の場合、〇はいくつでも)

1	ためらわず取得する	26.0%	7	仕事にやりがいを感じていること	4.1%
2	昇任・昇給等評定への影響	7.2%	8	制度が使いづらいこと	6.3%
3	職場に迷惑をかけること	62.7%	9	あまり前例がないこと	8.3%
4	職場の理解がないこと	5.5%	10	育児の経験が少なく自信がないこと	6.4%
5	職場復帰が大変そうなこと	20.7%	11	その他	3.4%
6	経済的な難しさ	21.5%		無回答	0.0%

問 13 勤続1年以上で月13日以上勤務している方にお聞きします。今、あなたが介護休業を取るとしたら、どのようなことにためらいを感じますか。(2~11の場合、〇はいくつでも)

1	ためらわず取得する	17.0%	7	仕事にやりがいを感じていること	5.4%
2	昇任・昇給等評定への影響	5.3%	8	制度が使いづらいこと	10.8%
3	職場に迷惑をかけること	70.2%	9	あまり前例がないこと	14.1%
4	職場の理解がないこと	7.8%	10	介護の経験が少なく自信がないこと	16.8%
5	職場復帰が大変そうなこと	15.6%	11	その他	2.4%
6	経済的な難しさ	24.9%		無回答	0.0%

問 14 あなたは、育児休業が、男女職員を対象としているのにもかかわらず、男性職員の取得率が低い最も大きな理由は何だと思えますか。(〇は1つ)

1	あまり前例がないから	23.3%
2	育児は女性の仕事という役割分担意識があるから	20.2%
3	育児への経験が少なく、自信がないから	6.8%
4	仕事優先という意識があるから	27.3%
5	職場の理解が低いから	15.8%
6	その他	6.5%
	無回答	0.0%

問 15 男性が育児休業や介護休暇を取ることに、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1	積極的に取った方がよい	51.6%
2	どちらかといえば取った方がよい	23.4%
3	どちらかといえば取らない方がよい	1.2%
4	取らない方がよい	0.6%
5	その時々立場や状況により変わるので、どちらともいえない	20.0%
6	わからない	1.3%
7	その他	1.8%
	無回答	0.0%

あらゆる分野における女性の活躍推進についてお聞きします

問 16 女性の一生と職業の関わり方で、あなたが最も望ましいと思われる形態はどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 結婚するまで職業を持つ(結婚退職型)	1.2%
2 子どもができるまで職業を持つ(出産退職型)	1.5%
3 子育て期間を除き職業を持つ(再就職型)	21.8%
4 子育て期間を含めて一生職業を持つ(職業継続型)	65.8%
5 一生職業を持たない(家事専念型)	0.3%
6 その他	9.3%
無回答	0.0%

問 17 あなたが、女性の働き方について問 16 のように回答した理由は、なぜですか。(〇はいくつでも)

1 仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから	56.0%
2 女性も経済力を持った方がいいと思うから	52.4%
3 夫婦で働く方が、経済的に安定するから	40.9%
4 女性の能力を活用できるから	38.2%
5 少子高齢化による労働力不足を補えるから	14.2%
6 子どもは、母親が家で面倒を見た方がいいから	6.1%
7 仕事と家庭の両立支援が十分ではないから	7.4%
8 働き続けるのは、体力面で大変そうだから	3.6%
9 女性は家庭を守るべきだと思うから	0.5%
10 特にない	3.9%
11 その他	9.6%
無回答	0.0%

問 18 社会において、育児、介護などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 保育施設、介護施設などの充実	67.7%	7 求人情報の入手機会の拡大	3.1%
2 延長保育、ショートステイなどのサービスの充実	34.7%	8 就職相談の充実	4.9%
3 家族の理解と協力	56.0%	9 女性が起業する場合の支援	1.5%
4 求人の年齢制限の緩和	17.3%	10 企業における再就職制度の整備や充実	24.7%
5 労働条件の改善	44.1%	11 特にない	1.1%
6 技術や技能習得の機会の拡大	5.2%	12 その他	2.0%
		無回答	0.0%

問 19 社会において、女性が職場で活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思えますか。  
(〇は3つまで)

1 企業における女性の採用・登用の促進	44.8%
2 女性のリーダー・管理職への登用について具体的な目標値の設定	21.4%
3 女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供	23.2%
4 女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実	40.9%
5 男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	30.8%
6 研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援	43.5%
7 わからない	7.1%
8 その他	5.0%
無回答	0.0%

人権についてお聞きします

問 20 あなたの職場で過去5年間にセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を見たり聞いたりしたことはありますか。あるいは、職場で実際に体験したことがありますか。(〇は1つ)

1 ある	17.1%
2 ない	82.9%
無回答	0.0%

問 20-1 は問 20 で「1 ある」と回答した方にお聞きします。

問 20-1 それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1 宴会でお酒のお酌やカラオケのデュエットを強要される	11.0%
2 性的な冗談を頻繁に言われる	26.3%
3 断っても食事にたびたび誘われる	24.4%
4 結婚の予定や出産予定をたびたび聞かれる	14.8%
5 故意に体を触られる	15.3%
6 容姿について繰り返し言われる	27.3%
7 立場を利用して性的関係を迫られる	2.9%
8 帰宅途中、後をつけられる	6.2%
9 性的な内容のメールや電話を受ける	4.3%
10 ひわいな写真などを見たくもないのに見せられたりする	1.0%
11 「女（男）のくせに」等の性差を理由とした不快な言葉を言われる	16.3%
12 その他	12.0%
無回答	0.0%



問 21 社会的に配偶者（事実婚や離婚後も含む）への暴力（DV）が問題になっていますが、配偶者との間で次のようなことが行われた場合、あなたはそれを暴力だと思いますか。次の（１）～（１２）について、それぞれ選んでください。（○は１つずつ）

	もど るも らど ん な 暴 力 に あ た る と 思 う	もそ あ る と 思 う 暴 力 の 場 合 も 、 そ う で な い 場 合 も	な い 暴 力 に あ た る と 思 わ な い	無 回 答
（１）何を言っても無視する	51.0%	46.3%	2.7%	0.0%
（２）交友関係や電話、メール、郵便を細かく監視する	67.0%	30.6%	2.4%	0.0%
（３）自分が家にいるときは外出しないようにと言う	67.5%	29.7%	2.8%	0.0%
（４）大切にしている物をわざと壊したり、捨てたりする	92.6%	6.8%	0.7%	0.0%
（５）「誰のおかげで食べられるのだ」とか「かいしようなし」と言う	88.2%	10.7%	1.1%	0.0%
（６）なぐるふりをして、おどす	94.3%	5.3%	0.4%	0.0%
（７）大声でどなる	77.7%	21.8%	0.5%	0.0%
（８）なぐる蹴るの暴力をふるう	98.4%	1.3%	0.3%	0.0%
（９）見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	92.1%	7.0%	0.8%	0.0%
（１０）避妊に協力しない	89.5%	9.8%	0.7%	0.0%
（１１）おどしや暴力によって、意に反して性的な行為を強要する	97.5%	2.1%	0.3%	0.0%
（１２）生活費を渡さない	79.9%	19.0%	1.1%	0.0%

多様な性自認・性的指向の人々についてお聞きします

問 22 多様な性自認・性的指向の人々（以下、「性的少数者」とする）について、どのように思いますか。次の（１）～（５）について、それぞれ選んでください。（○は１つずつ）

	そう思う	どちらかと言うとそう思う	言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
（１）個人の人権として理解・尊重するべきである	76.4%	17.2%	3.3%	0.7%	0.6%	1.9%	0.0%
（２）同性・異性など、好きになる性別は、自分ではコントロールできないものである	70.3%	17.3%	5.2%	1.0%	1.1%	5.1%	0.0%
（３）性的少数者の割合は約 13 人に 1 人とも言われているが、その通りだという実感がある	12.8%	14.6%	25.5%	12.7%	9.7%	24.6%	0.0%
（４）性的少数者であることを公表している人が多くなっている	18.2%	37.6%	17.3%	8.4%	8.1%	10.3%	0.0%
（５）友人が性的少数者だと知った場合、変わらずに接することができる	45.8%	31.3%	12.3%	2.0%	0.9%	7.7%	0.0%

問 23 性的少数者は日常生活で、下記のようなことに困っていると言われていました。次のうち、あなたが知っているものはどれですか。（○はいくつでも）

1 性的少数者に対して偏見や差別があること、無理解であること	87.9%
2 心の性に合う公衆トイレや入浴施設がないこと	80.2%
3 パートナーと共同で住宅ローンを組むことに制限があること	44.8%
4 パートナーが入院した際、治療方針等について説明を受けられないこと	55.6%
5 婚姻届を提出した関係にある夫婦を対象とした社会保障（年金、健康保険など）になっていること	61.0%
6 恋愛や結婚に関する質問に答えづらい、話題に入りづらいこと	50.7%
7 その他	1.6%
無回答	0.0%

国・区の政策や施策についてお聞きします

問 24 男女共同参画社会を実現するために、あなたは、どのようなことが大切だと思いますか。

(〇はいくつでも)

1	法律や制度の見直しを行い、女性差別につながるものを改めること	57.7%
2	女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改めること	69.7%
3	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術を習得すること	51.1%
4	女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	46.8%
5	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	33.5%
6	家事や育児、高齢者・病人の介護や看護を、男女とも担える社会づくりを進めること	74.5%
7	学校や教育の場で、男女平等教育を推し進めること	49.0%
8	配偶者や家族の理解や協力を得ること	53.2%
9	男女平等に関する普及啓発や区民の自主的活動への支援などを行うこと	30.9%
10	その他	2.7%
	無回答	0.2%

アンケート調査へのご協力、ありがとうございました。